



## 学園の使命

学校法人東京電機大学は

大学、高等学校、中学校の経営を通じ、

115年の歴史と伝統をもとに、

次世代を担う技術者を中核とした

人材を育成することにより、

社会に貢献することを使命としています。

その責任は、在学している学生・生徒、

ご父母、卒業生、産業界、社会全体、

そして未来に負います。

Annual Report 2022

# 学校法人東京電機大学

| 2021年度 学園活動の概況

# TDU

学校法人東京電機大学 総務部 企画広報担当

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番 Tel.03-5284-5125 Fax.03-5284-5180 E-mail : keiei@jim.dendai.ac.jp  
<https://www.dendai.ac.jp/>

# 輝き続ける学園の実現に向けて



学校法人東京電機大学 理事長 **石塚 昌昭**

本学園は2014年度から10年間を目途とする中長期計画を策定、2019年度からの後半5年に向けた改訂を行いつつ諸事業を推進しています。時代を超えて輝き続ける東京電機大学の実現のため、本年も各事業の目標達成に向けて活動します。

学生・生徒、教職員に対し教育・研究の環境を十分に提供することが、理事長としての重要な任務であると考えています。少子高齢化など学園にとって厳しい状況の中、全教職員と学園の理念や目標を共有しながら、中長期計画を着実に進め、健全な財政を維持し、学園の使命を果たしていきたいと思っています。

2019年に発生し今なお終息のみえない新型コロナウイルス感染症の影響により、学園を取り巻く環境は大きく変化しました。しかし、建学の精神「実学尊重」と、教育・研究理念「技術は人なり」、そして創立当初からの技術者教育への熱い思いと学生・生徒主役、教育最優先の精神は、これからも変わりません。今後も教育・研究・社会貢献での特色ある取り組みを推進し、大学の目標でもある「理工系大学のトップランナーの一員として評価される」ことを目指します。

コロナ禍の中、大学の入学志願者数は、延べ29,500名を超え前年並みを維持、就職内定率も年末には、修士95%、学部90%と前年を上回りました。また、本学は、文部科学省「令和3年度私立大学等改革総合支援事業」の4つのタイプ(タイプ1 特色ある教育の展開、タイプ2 特色ある高度な研究の展開、タイプ3 地域社会への貢献、タイプ4 社会実装の推進)すべてに選定された4大学のひとつに入りました。3年連続で4つのタイプに選定されております。

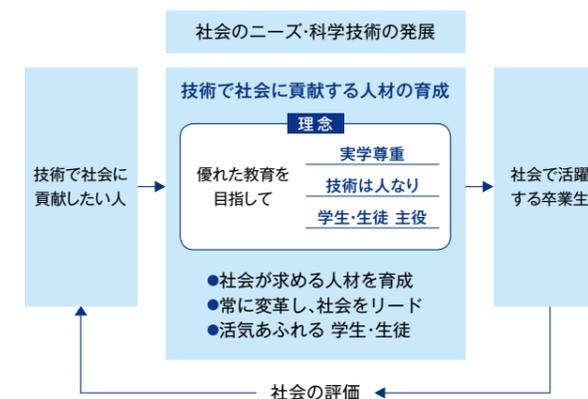
昨年8月から10月にかけては新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を実施、延べ5,500名を超える学生・教

職員・近隣関係者等に接種機会を提供しました。通常の授業や学校生活を提供できない状況が続きましたが、十分な感染対策を行い、全面登校に移行するなど、コロナ前の学修環境を取り戻しつつあります。学生・生徒への学習面、経済面での支援を続けるとともに、スピーディーな対応・決断・行動を心がけ、学園運営を継続したいと思います。

本年は、2024年度以降の中長期計画を策定するため、「将来構想企画委員会」及び委員会4部会を設置し協議を始めています。コロナ禍という試練も貴重な経験として捉え、次の時代へと繋ぐ、実効性のある次の中期計画を策定します。

本学園は今年で創立115年を迎えます。卒業生は23万人を超え、世界の各界における卒業生の活躍が、本学園の社会的評価に表れていることを大変誇りに感じます。社会環境の変化に適応しながらも受け継がれてきた伝統と精神を堅持し、次の100年に責任をもつ学園として、その使命「技術で社会に貢献する人材の育成」に努めてまいります。

学園のスキーム図



## CONTENTS

- 01 ● **理事長メッセージ**  
「輝き続ける学園の実現に向けて」
- 03 ● **TDUのスピリットとミッション**  
「115年の歴史と伝統」
- 05 ● **TDU特集**  
コロナ禍での活動(2021年度) /  
特色ある支援制度 / 2022年度全学カリキュラム改編
- 09 ● **基本情報・経営体制**
- 11 ● **学長・学校長メッセージ**  
「予測困難な未来に貢献する  
確かな思考力と行動力を備えた技術者の育成」
- 13 ● **事業報告 令和3年度の取組と成果**
- 19 ● **財務の概要 令和3年度**
- 25 ● **TDU Edge 特色ある取り組み**
- 36 ● **データ集**

# TDUのスピリットとミッション 115年の歴史と伝統

## TDUの歴史

### History 1 創立から大学開設まで

#### 電機学校を東京・神田に創立

創立者・廣田精一・扇本眞吉  
「生徒第一主義、教育最優先主義、実学尊重」を基本方針とする。



(左上)電機学校第一回卒業式 (右上)最初の自己所有校舎  
(左下)神田駅まで続いた下校生徒の波 (右下)実演室

# 1928



丹羽保次郎博士が写真伝送(現在のファックス)に成功。  
本学実演室で、高柳健次郎氏による日本初のテレビ公開実験。

#### 東京電機大学開設

電機学校創設時より掲げられた3つの主義「生徒第一主義」「教育最優先主義」「実学尊重」の精神を引き継ぎつつ、1949(昭和24)年に設立された東京電機大学においては、中でも「実学尊重」を建学の精神とし、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を目指し、現在まで一貫して実学を重視した教育を実践している。  
1949(昭和24)年の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽保次郎は、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考えに基づいた「技術は人なり」を東京電機大学の教育・研究理念として掲げた。この理念は東京電機大学中学校・東京電機大学高等学校の校訓「人間らしく生きる」としても受け継がれている。

# 1949



(上)大学発足時の教授陣  
(下)本館(5階増築)

# 1907

1907

1928

1949

1958

2007

2023

技術で社会に貢献する  
人材の育成を目指して

1914 科学技術誌「オーム」発刊(現在のオーム社に発展)。  
1924 ラジオ実験放送を開始(NHKは1925年実験放送を開始)。  
1948 電機学園高等学校開学(現・東京電機大学高等学校)。  
1950 東京・秋葉原に秋葉原電気街誕生。本学が育ての親と言われる。  
1952 工学部第二部設置(夜間)。

#### 大学院開設

(日本初の夜間大学院)  
日本で初めて夜間大学院を開設した。現在も多くの専攻が昼夜開講し、働きながら学びたい学生や社会人に学びの場を提供。



大学院第1回入学式

# 1958

#### 創立者

廣田 精一  
(1871~1931)



広島県生まれ。1896年東京帝国大学工科大学卒業。高田商会に在籍のままドイツシーメンス・ハルスケ電気会社入社、その後欧米諸国を視察して帰国。1907年扇本眞吉とともに私立電機学校設立、1914年オーム誌創刊、1916年組織を財団法人に改め、総務理事に就任。1921年現神戸大学工学部を創立。電気自動車の開発にも力を注ぎ、エンジンにも面会した。

扇本 眞吉  
(1875~1942)



岐阜県生まれ。1902年東京帝国大学工科大学卒業。ドイツシーメンス・ハルスケ電気会社、深川電機株式会社、江ノ島電気鉄道株式会社等に奉職。1907年廣田精一とともに私立電機学校を設立し、初代校長として尽力。1916年組織を財団法人に改め財務理事に就任。専心その任にあたる。

#### 建学の精神「実学尊重」

「電機学校設立趣意書」に「工業は學術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習を行う」ようにとあります。独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実にも努めました。「実学尊重」は建学の精神として、本学の礎となっています。

### History 2 大学の発展と躍進

#### 初代学長

丹羽 保次郎 (1893~1975)

三重県生まれ。1916年東京帝国大学工科大学電気工学科卒業。通信省電気試験所、日本電気株式会社に勤務。1924年に欧米を視察し帰国後、写真電送の研究に取り組み有線写真電送装置を発明した。日本初の写真電送装置(ファクシミリ)として、昭和天皇即位式のニュース写真の電送に用いられ優れた成績を上げ、世界で広く普及。さらに無線写真電送の研究に着手。1929年、東京・伊東間で日本初の長距離無線写真電送の実験に成功。1949年東京電機大学の初代学長に就任。1955年(社)テレビジョン学会初代会長。1957年米国無線学会(米国電気電子学会の前身)副会長、同東京支部長。1959年に文化勲章、1971年に勲一等瑞宝章を授与される。日本の十大発明家に数えられる。



1990 千葉ニュータウンキャンパス開設。  
1992 東京小金井キャンパスを開設し高等学校移転。  
1996 東京電機大学中学校開校。  
2000 文部科学省・経済産業省による東京電機大学TLO(技術移転機関)承認。  
2001 情報環境学部を千葉ニュータウンキャンパスに開設。  
2006 大学院先端科学技術研究科を開設。

1958

2007

2023

学園創立100周年

学園の中長期計画の達成 (社会環境の変化に適切に輝き続ける東京電機大学の実現)

1962 第2代学長阪本捷房博士が日本ME学会(現・日本生体医工学会)を創立。

1970 パソコン創成期に先導的役割を果たす。

1977 理工学部設置(埼玉鳩山キャンパス)。

# 2007



#### 学園創立100周年

学園創立100周年記念式典。2007(平成19)年9月11日。

未来科学部設置、全学的改編を実施。

2010 (公財)大学基準協会による大学基準適合認定。

#### 教育・研究理念「技術は人なり」

「私は技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすものであることを申し述べたいのであります。すなわち「技術は人なり」というのです。立派な技術には立派な人を要するのです。よき技術者は人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に「人」にならなければならない。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです」  
「技術を構成する要素には、それぞれの自然法則が応用されるのでありますが、これを構成して大きな総合技術を完成するには、技術者の構想を多分に必要とするのであります」  
「専門学科学科の精選充実を図るとともに、実験及び実習を重視する。特に従来の学校教育の習得偏重を排し、技術者として実地に測する物の製作技術を修得し、且つ勤労の精神を涵養する目的を以て已に実習工場を設けてあるが、新制大学としても益々之を拡充する」(大学設置認可申請書より)  
※「内」は本学園の年史等より抜粋(典拠記載のあるものを除く)



2021 システムデザイン工学研究科設置

2017 学園創立110周年 東京千住キャンパス5号館開設

システムデザイン工学部設置、大学基準適合認定。

2014 学園の中長期計画「TDU Vision 2023」の策定

2012 創立の地神田から北千住へ移転

学園創立100周年記念事業として2008年には東京千住キャンパスの創設が決定。2012年、北千住に移転した。これにより、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスに104年の歴史を引き継ぐこととなった。

#### 東京千住キャンパス開設

東京千住キャンパスは、東日本大震災を経ながらも、2012年4月に開設した。世界的な建築家の横文彦氏の設計による、最新の環境がそろう学生主役のスマートキャンパス。



TDU特集

# コロナ禍での活動 (2021年度)

2021 4月

APR.

## ▶ 入学式

4月2日に、「令和3年度大学院・大学入学式」を日本武道館で挙行了。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、座席1つ置きに学生が着席し、アリーナ、1階スタンド、2階スタンドまでの客席を使用して行われました。式には、昨年、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入学式が中止になった令和2年度の入学者のうち約500名も参加し、式場でともに入学を祝いました。なお、出席は学生のみ限定し、式典の様子はインターネットでライブ配信しました。



入学式

新生宣誓

## ▶ ハイブリッド授業・対面授業

4月より、学生を2グループに分け、隔週で一方が登校しながらもう一方は自宅等でオンライン受講をするハイブリッド授業を開始しました。また、学生、教職員の安全と健康に配慮し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策として、教室や食堂にはソーシャルディスタンスや黙食を呼びかける掲示とアクリル板を設置しました。一部の研究科・学部においては、11月上旬より、全員登校による対面授業を実施しました。



SEP.-NOV.

2021 8~11月

## ▶ ハイブリッド学園祭

10月30日・31日の2日間、「東京電機大学ハイブリッド学園祭」を開催。令和2年度はオンライン学園祭として開催しましたが、令和3年度は前年度同様のオンライン開催と来場者限定(予約制・入場人数制限あり)のオンキャンパス(来場型)を組み合わせ、本学としては、史上初の「ハイブリッド学園祭」に挑戦しました。

ライブ配信とオンデマンド配信による「オンライン開催」のコンテンツは、人気声優やお笑い芸人の企画をはじめ、ロケ企画やeスポーツ大会、学生団体や学科・学系・研究室紹介など。「オンキャンパス」は来場者を限定し、東京千住キャンパスでは、予約制により一般の方の来場を人数の上限付きで受け付け、入れ替え制



鳩山祭ライブ配信

とし学生団体の展示を中心に開催しました。埼玉鳩山キャンパスは、学内関係者のみの来場となりました。オンラインのYouTube視聴回数は2日間で約18,000回、オンキャンパスの来場者は約800人となりました。



旭祭ライブ配信

旭祭X展メインビジュアル

※オンキャンパス(来場型)の開催は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮し、本学独自のガイドラインに基づいて実施しました。  
※キャンパスごとの学園祭名称は、東京千住キャンパス「第10回旭祭」、埼玉鳩山キャンパス「第45回鳩山祭」。

## ▶ 新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種

8月30日~10月9日まで、東京千住・埼玉鳩山の両キャンパスで新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種(職域接種)を実施しました。接種対象は本学の学生、教職員をはじめ、教職員の同居家族(12歳以上)等で、武田/モデルナ社製ワクチンを使用。接種期間中に延べ5,596人が接種を受け、希望するすべての対象者に対し接種を完了しました。

なお、国等からの要請により、「職域接種」において同一会場で2回目の接種を受けることが困難な方、近隣の学校関係者についても受け入れ対応しました。

※ワクチンの接種はあくまでも任意であり、接種をしないことで不利な扱いを受けることはありません。



新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種 事前のデモンストレーション

## ▶ 中学校・高等学校 文化祭(TDU武蔵野祭)開催

9月18日・19日に、2年ぶりにTDU武蔵野祭(文化祭)を実施。参加者は生徒のみとし、生徒の校内滞在時間は原則半日とするなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先として開催しました。



2022 3月

MAR.

## ▶ 令和3年度 大学院修了式・大学卒業式を挙行

3月18日に「令和3年度大学院修了式・大学卒業式」を日本武道館にて挙行し、大学院博士課程13名(課程による博士9名、論文による博士4名)、大学院修士課程399名、学部生1,943名が新たな門出を迎えました。参加は、修了生・卒業生1名につき、ご家族等の付添者1名のみに限定。式典の様子はインターネットでライブ配信しました。



## 特色ある支援制度

### ▶ 総合型選抜(はたらく学生)で入学した第1期生が卒業

この入学者選抜制度は経済的な事情等で大学への進学に不安を抱えつつも、学ぶ意欲、働く意欲がある人を積極的に支援することを目的として、平成30年度より導入しました。入学後は、昼間は東京千住キャンパスの各学部学科等の「学生職員」として働きながら、夜間は工学部第二部で学ぶことができます。この制度で入学した第1期生が令和4年3月に、卒業を迎えました。



#### 卒業生からのコメント

吉田海斗さん(工学部第二部電気電子工学科 令和4年3月卒業)

経済的な理由から大学進学をあきらめていたとき、学費を稼ぎながら勉強ができる「総合型選抜(はたらく学生)」を知り、工学部第二部の電気電子工学科に入学しました。昼間は「ものづくりセンター」に勤務し、3Dプリンタのメンテナンスなどを担当しました。操作技術の向上も兼ね、空いた時間を利用して3Dプリンタでのものづくりを試みながら、機械の知識や構造を学ぶことができました。講義の時間、仕事の時間を有意義に過ごすことができ、将来の夢が大きく広がりました。

### ▶ 若手研究者育成支援制度 令和4年3月特任助手1期生が任期満了

令和3年度に導入したこの制度では、本学大学院先端科学技術研究科(博士課程)の優秀な学生が研究教育に専念できるよう、大学院生の身分を有したまま、一定の収入を保証する「特任助手(任期付)」として本学が雇用し、研究者としてのキャリアを支援します。

採用後は、学科演習等の授業補助や学部生・修士課程学生の研究指導補助、入学試験等の運営補助などの職務を担います。令和4年3月に、特任助手1期生が任期満了を迎えました。



#### 任期満了した特任助手1期生からのコメント

津國和泉さん(先端科学技術研究科情報通信メディア工学専攻 博士課程)

博士課程への進学を考えるうえで大きな壁の一つに経済的な側面がありましたが、経済的支援を受けながら博士課程で勉強できる特任助手の制度を知り、すぐに応募を検討しました。1年間特任助手として勤め、何よりも経済的にとても助けられました。もし採用されなければ、かなりの時間をアルバイトに費やす必要があったと思います。腰を据えて研究に取り組む時間を確保でき、とても有り難く感じています。また、博士課程在学中に実際に自分で授業を行う教育経験も得られ、貴重な経験となりました。

## 2022年度全学カリキュラム改編

### ▶ 2022年度全学カリキュラム改編(2021年度の動き)

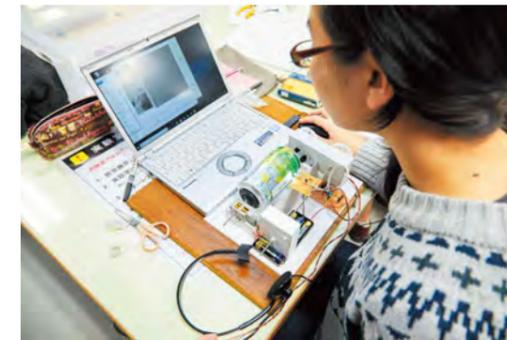
2022年度全学カリキュラム改編に向け、新たなカリキュラムの検討を進めました。

激動する社会の変化の中でも活躍できる真の研究者・技術者を育成することを目的とし、2022年度より、次の5つを柱とする新たなカリキュラムがスタートしました。

#### 1. 建学の精神「実学尊重」を時代に沿ったキャリアイメージにアップデートしたカリキュラム改革

本学では、基礎科目から積み重ね、専門性の高い高度な科学技術を学べるようにカリキュラムを組んでおり、学べる学問分野・履修科目は多岐にわたります。その中で、これから学ぼうとしている科目が、将来のキャリアにどのようにつながっていくのかを考えながら履修計画を立てられるよう、キャリア情報(関連する資格講座や就職業界の情報)と履修科目の関係性を可視化した、独自のカリキュラムモデルを提供します。

### 2. 実社会で求められるジェネリックスキルの育成



全新生が設定されたテーマに沿ってグループに分かれて創造的な対話を重ねる初年次科目「東京電機大学で学ぶ」や、仲間と協力してものづくりに挑戦する「ワークショップ」など、アクティブラーニングを段階的に実施します。これにより、企業や実際の現場で、専門的な知識や技術を発揮できるよう、自律性・協調性・リーダーシップ・創造性などの資質・能力を実践的に育成します。

### 3. 確かな資質・能力(技術力)の成長を保証するカリキュラム編成



3年次に「卒業研究に着手できる必要最低限の資質・専門的能力」を育成し、その成果を厳格に見極めるアセスメント科目を全学科・学系に新設します。担当教員によるきめ細かい指導を行い、本学の卒業生に科学技術者としての専門知識・技術の定着を保証します。

### 4. 特色ある科目のオンラインによる全学展開

本学は、東京千住キャンパス、埼玉鳩山キャンパスのそれぞれの学部・学系において、特色ある教育を展開しています。専門科目の学修に資する理工学基礎科目として、1年次に「科学技術概論」の科目を開講します。この科目をオンライン環境の活用によって、全学の学生が受講できるようにしました。学部・学科・学系の枠を越えた複数の教員が分担して、それぞれ専門分野の観点から最先端技術を解説します。

### 5. 教育・研究理念「技術は人なり」の精神に基づく技術者教養教育の充実



本学の教育・研究理念である「技術は人なり」をより鮮明に共有するために、科学技術者に必要な技術者倫理などの技術者教養科目を、全学部に配当しました。

# 基本情報

## 学校法人東京電機大学の概要

2022(令和4)年5月現在

創立：1907(明治40)年9月11日  
 理事長：石塚 昌昭  
 監査法人：EY新日本有限責任監査法人  
 教職員数：598名(教員数411名、職員数187名)  
 設置学校：東京電機大学

- 大学院**
  - 先端科学技術研究科(博士課程(後期))
  - 工学研究科(修士課程)
  - 理工学研究科(修士課程)
  - 未来科学研究科(修士課程)
  - システムデザイン工学研究科(修士課程)
- 工学部**
  - 電気電子工学科
  - 電子システム工学科
  - 応用化学科
  - 機械工学科
  - 先端機械工学科
  - 情報通信工学科
- 工学部第二部**
  - 電気電子工学科
  - 機械工学科
  - 情報通信工学科
- 未来科学部**
  - 建築学科
  - 情報メディア学科
  - ロボット・メカトロニクス学科
- システムデザイン工学部**
  - 情報システム工学科
  - デザイン工学科
- 理工学部**
  - 理工学科
    - 理学系
    - 生命科学系
    - 情報システムデザイン学系
    - 機械工学系
    - 電子工学系
    - 建築・都市環境学系

キャンパス所在地：

### 東京千住キャンパス 東京都足立区千住旭町5番

- 法人・大学本部
- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院工学研究科
- 大学院未来科学研究科
- 大学院システムデザイン工学研究科
- 工学部
- 工学部第二部
- 未来科学部
- システムデザイン工学部
- 総合研究所
- 出版局



### 埼玉鳩山キャンパス 埼玉県比企郡鳩山町石坂

- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院理工学研究科
- 理工学部
- 総合研究所



### 千葉ニュータウンキャンパス

千葉県印西市武西学園台2-1200



### 東京小金井キャンパス

東京都小金井市梶野町4-8-1

- 中学校・高等学校



### 東京電機大学高等学校

全日制課程 普通科

### 東京電機大学中学校

#### 研究推進社会連携センター：

総合研究所 サイバーセキュリティ研究所/レジリエントスマートシティ研究所/  
 医療・福祉機器開発・普及支援センター/耐震安全研究センター/  
 知能創発研究所

#### ものづくりセンター

#### インスティテューショナル リサーチ センター

#### 総合メディアセンター

#### 東京電機大学出版局

# 経営体制

## ガバナンス体制

●理事会は現在、理事13名及び監事2名で構成し、経営、管理運営及び業務執行に関する重要事項を審議するため、8月を除く毎月1回開催し、また必要に応じ臨時に開催しています。

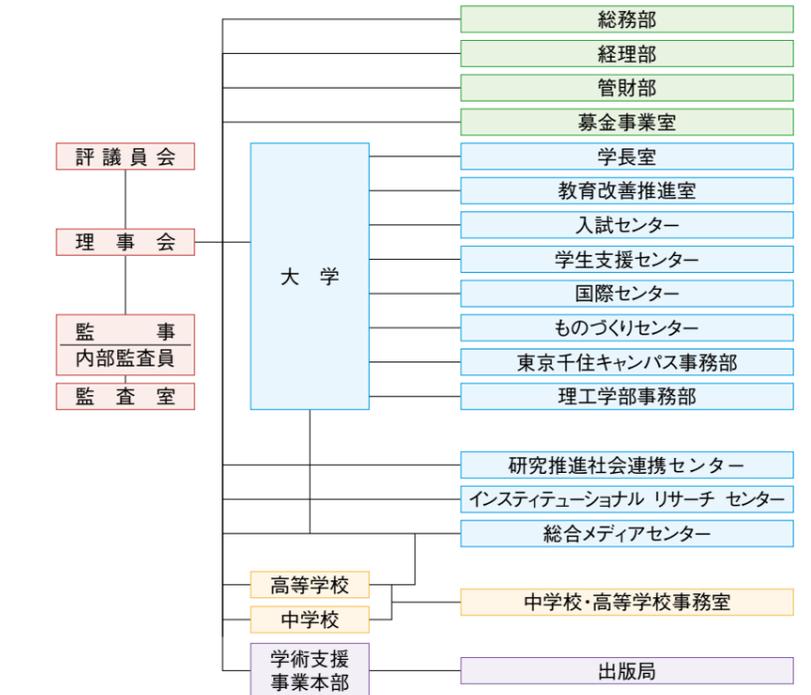
●常勤理事会は理事長、学長、常務理事及び本法人の身分を持つ理事で構成し、意思決定の迅速化、権限と責任の明確化等を図るため、理事会付議事項の審議及び理事会の委任業務について決定し、毎週1回を原則に開催しています。また必要に応じ、監事、外部理事等の出席を要請しています。

●常務理事、担当理事を配置し、学園運営にあたっています。

●監事は、2名のうち1名はこれまで本法人の役員または職員でなかった者を選任。理事会に出席し、法人全般の業務や財産の状況を監査します。また、監事監査、会計士監査、内部監査の三様監査の体制をとっています。

●評議員会は学識者、卒業生、教職員など50名近くで構成し、予算と決算を含む学園経営の重要な事項の諮問や決定を行う機関として、年数回開催しています。

### 管理運営組織 (事務組織) (臨時組織は除く)



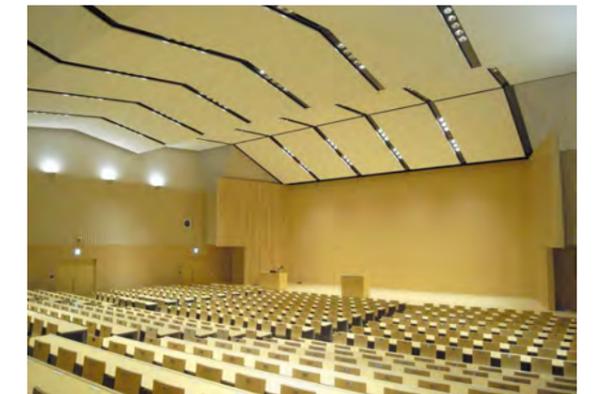
## 学校法人東京電機大学 理事・監事

### 理事

- 石塚 昌昭 理事長
- 射場本忠彦 学長
- 平栗 健二 統括副学長
- 吉田 俊哉 工学部長・工学部第二部長
- 平川 吉治 中学校・高等学校長
- 三井 和幸 工学部教授
- 佐藤 龍 総務部長
- 渡辺 貞綱 元一般社団法人東京電機大学校友会理事長
- 上西栄太郎 一般社団法人東京電機大学校友会理事長
- 平沼 大輔 平沼高明法律事務所弁護士
- 村上 和夫 株式会社オーム社代表取締役社長
- 工藤 智規 元文部科学省文部科学審議官
- 齊藤 剛 元システムデザイン工学部教授

### 監事

- 高 為重 元文部省大臣官房総務審議官
- 別府 明雄 元株式会社テレビ東京・元板橋区教育委員会教育委員長



## 予測困難な未来に貢献する

# 確かな思考力と行動力を備えた技術者の育成



東京電機大学 学長 射場本 忠彦

### 学長メッセージ

## 変化の時代、変わらぬ精神のもと、 未来社会を担う、研究者・技術者を育成。

2021年度も、連日報道される新型コロナウイルス感染者数の増減グラフに、諦めと期待を繰り返す1年となりました。

本学でも「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」や「感染症まん延防止等重点措置」の発出に対応しながら、都度都度、キャンパス入構の停止や制限、感染状況に応じた対面とオンライン授業の併用など、教職員一同、教育の継続に最大限の努力をしております。

当然、このような状況に学生は不安や不満、理不尽さを感じ

ている(いた)ことと思います。そのような中、コロナ禍の制約はあったものの、令和4年3月18日に日本武道館において無事修了式・卒業式を挙行し、2,348名の修了生・卒業生が本学を巣立ちました。その厳かな卒業式式典を終えた後段に、卒業生の船出を祝し「社会に巣立つ修了生・卒業生を応援する」学生イベントが催行されました。恐らく、世間から見るとごく当たり前の事柄かも知れません。ただ、小職としては、キャンパスを跨いだ混成の在校生有志、および教職員有志が自発的に企画立案し、コロナ禍の制限下と短い準備期間の中を切り抜け具現化に漕ぎつけた、当事者意識の発現プロセスに対し勇気づけられた思いです。

この思いの背景には、コロナ禍下の制限からくるコミュニケーション不足への危惧があります。

一つは教員と学生間の伝承(以心伝心など)のむずかしさ、とりわけ、対面授業や研究指導時における「雑談」の効用が不十分となりがちな点です。

二つ目は同級生同士、あるいは先輩と後輩間での交友のむずかしさ、通常ですと「自ずと育まれるであろう人間力育成のチャンス」の低減です。学生は勉学の傍ら、委員会・部・クラブ・サークルなどのキャンパスライフに相応の時間を費やします。しかし、課外活動ができない、上級生やOB・OGとの関係が希薄となると、「部やサークルそのものの継続性の問題」や「社会に出る訓練の未完」という意味においても心配です。若者故、順応性は高いので杞憂かも知れませんが、4年間の学生生活における2年間のプランクは大きな損失と考えます。

本学の根幹をなす教育・研究理念「技術は人なり」を、初代学長丹羽保次郎先生はこう述べられました。

「よき技術者は人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に『人』にならなければなりません。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです」

変化の激しい時代を迎えています。世界平和、新型コロナウイルス感染症の終焉、地球温暖化対策の進展などを願いつつ、今後も未来を担う研究者・技術者の育成に努めてまいります。

# の育成

### 学校長メッセージ

## 正解のない問いに挑戦し続けられる 確かな基礎力を養う。

今から二千年以上も前、中国の前漢時代に成立した思想書『礼記』の一節には、「学びて然る後に足らざるを知る。」とあります。真理の追究には果てしがなく、学問というのは積み上げるほどに新たな課題が見えてくるということなのでしょう。たしかに、科学の分野においても研究が進めば進むほど、新たな研究テーマが現前します。中学・高校時代はそうした未知の世界に踏み込むための準備期間であり、知の本質に近づくための、つまりは課題発見のための「学びの習得」が重要となります。我々はそうした学び続ける子どもたちを育てるべく、日々の教育活動に取り組んでいます。

中高では、コロナ禍2年目であった令和3年度は、さまざまな感染対策を講じながら、前年度に実施できなかった学校行事を可能な限り再開しました。4月には規模を縮小しながらも入学式を挙行しました。また、体育祭・文化祭といった学校生活の柱となる大きな行事や最大の宿泊行事である高等学校の修学旅行も、準備・運営する生徒たちの創意工夫によって、大きな混乱もなく実施することができました。そうしたさまざまな活動を通して、生徒たちはコロナに対して真剣に向きあい、答えのない問いかけと格闘しながら成長したようです。コロナ禍での学校生活は、一つの問題を克服してもまた次の問題が襲ってくるという、まさに「学びて然る後に足らざるを知る。」の連続でしたが、生徒たちの「主体的な学び」を引き出したのではないかと考えています。

中高では4月に小金井キャンパス移転30年を迎えました。小金井の地での30年間の歩みの中で、工業科の募集停止や中学校の併設、そして男女共学化と、中高は時代に合わせた変遷を遂げてきました。そして、それは今後も続いてまいります。中学校では令和3年度から教育課程が改訂となり、「探究」を教科として時間割に組み込み、週に1時間の探究活動を指導しています。また高等学校では令和4年

度入学生から新教育課程に移行し、低学年次に理科を集中して履修します。このように、中高ではこれまで以上に理系色を前面に出したカリキュラムを通して、主体的に学ぶ生徒を育ててまいります。

中学校・高等学校の校訓である「人間らしく生きる」とは、自分の責任において生きる道を決めていくことです。先の見えない時代を生きるために大切なのは、「なぜ自分はその道を選んだのか」という、判断に対する明確な根拠です。

物事を判断するための材料としての基礎知識、フェイクに惑わされずに正しい情報を得るためのリテラシー、自分の得た知識や情報をもとにして論理的に考える力、そして自分の導き出した答えを発信するためのコミュニケーション能力や表現力。中高での学習活動においては、これらの能力を結びつけ関連づけながら、未来に対する答えを探ります。

正解を選ぶことよりも、選んだ道が正解だと自信をもって言えること、それが東京電機大学中学校・高等学校の学びの先にある「人間らしく生きる」ことだと考えています。



東京電機大学中学校・高等学校 学校長 平川 吉治

# 事業報告

令和3年度の取組と成果

## 輝き続ける強い学園を目指して

令和3年度、本学園は新型コロナウイルス感染症拡大への様々な対応を実施しつつ、「学園中長期計画(TDU Vision 2023)改訂版」及びその進捗状況を踏まえて策定した「令和3年度学校法人東京電機大学事業計画書」に基づき各事業を推進しました。

1. 大学・大学院
2. 中学校・高等学校
3. 財政健全化
4. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し
5. その他、継続する諸課題
6. 推進のための点検評価と次の中期計画策定着手
7. 中長期計画の進捗・達成状況

### 「学校法人東京電機大学中長期計画 ～TDU Vision 2023～」(改訂版)

社会環境の変化に適切に輝き続ける東京電機大学の実現

(骨子)

- I. 大学:理工系大学のトップランナーの一員としての評価の確立
- II. 中学校・高等学校:教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- III. 財政健全化の推進
- IV. ガバナンス構築と運営組織の見直し
- V. 推進のための点検評価

### ▶ 令和3年度事業の概要 ◀

令和3年度は、「学園中長期計画(TDU Vision 2023)改訂版」及びその進捗状況を踏まえて策定した「令和3年度学校法人東京電機大学事業計画書」に基づき、建学の精神、教育・研究理念に沿った各種事業に取り組んだ。

『大学』では、前年度に引き続き、建学の精神「実学尊重」を追求し質の高い教育を目指し、全学的な観点からアセスメント科目やCAP制度の見直しを含めた昼間学部のカリキュラムを令和4年度から実施する。また、多様なメディアを高度に利用した授業を定義し、アクティブラーニングを活用する取り組みを推進した。加えて、初年次教育やものづくり教育等を実施することで、教育・研究理念「技術は人なり」を具現化する自校教育や倫理教育を強化した。履修証明プログラムの推進など社会人教育の充実に取り組むとともに、研究面では新型コロナウイルス感染症拡大のなか様々な制約があるものの、独創性の高い研究や地域連携に力を注いだ。『大学院』では、令和5年度からの実施に向け、カリキュラム改編に係る検討を開始した。

その他、新型コロナウイルス感染症拡大への対応としてキャンパス内への入構制限を実施するなか、本学の強みである「めんどろみの良さ」を維持し、様々なオンライン中心のサポートを続けるとともに、必要に応じた経済的支援を行った。結果として休退学者は例年よりも減少した。就職については様々な取り組みにより、コロナ禍においても就職指導に工夫を凝らし、ほぼ例年通りの内定率を維持することができた。一方、学生募集については、対面形式のオープンキャンパス、ICTを積極的に活用した入試相談会などを実施し、例年通りの志願者数を確保することができた。

『中学校・高等学校』では、新教育課程の実施に合わせ設置される探究授業のカリキュラムを策定するとともに、タブレット端末を利用した教育手法を導入し、充実した教育体制の整備と教員のスキルアップを図った。また、新型コロナウ

イルス蔓延の影響による休校・自宅学習期間中のオンライン授業の実践を通じ、コロナ禍の副産物として、今後の授業実践に関する新しい知見を得た。入試については、大学入学共通テストへの対応、東京電機大学推薦進学希望者に国公立大学との併願を認める制度の継続等、東京電機大学との高大連携を推進し理工系を意識した募集活動を実施した。オンラインを活用した募集活動を行いつつ塾訪問も積極的に展開し、中学校では開設以来最高の志願者数となった。

『財政健全化の推進』では、経常的経費等の削減、各種手当の見直しや人員の適正配置、超過勤務時間の削減等による人件費抑制、外部研究資金の獲得や社会人教育等による収入増及び大学院(修士課程)における入学者の定員確保、休退学者の縮減による学費収入の確保に努めた。また、新型コロナウイルス感染症の収束が先行き不透明な状況が続くことを見越し、想定外の収入の減少、支出の増加に備え、事務部署予算については、前年度の当初予算から原則3%の予算削減を行い、その財源の一部を予備費に増額計上した。

『ガバナンスの構築及び運営組織の見直し』では、規程に基づき学長選考委員会が、任期満了の1年前の学長の実績評価を実施した。また、令和6年度以降の中期計画策定に着手するため、理事会の下に基本方針検討委員会を設置し、将来構想企画委員会への諮問内容について、前提条件を含め検討した結果を理事会へ報告した。

本学園は、私立の教育・研究機関として特色ある人材育成と研究推進、自律した運営体制の確立を目指してきた。教職員は創立者の思いを受け継ぎ、学生・生徒主役を旨としてそれぞれの役割を認識しつつ、互いに連携、協力、新たなチャレンジに挑むことで、未来に責任を持ち、一層輝き続ける強い学園を目指す。

## 1 | 大学・大学院

繰り返された「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」の実施時期に合わせて、各キャンパスで入構制限運用の扱いを継続しつつ「1/2分散登校」「ハイブリッド型授業」「対面授業」など様々な工夫を通じ、新型コロナウイルス感染症に対応し、ICTを最大限に活用し特色ある質の高い教育を維持した。

全学部においてカリキュラム改編の検討を進め実施を承認、新カリキュラムは令和4年から開講される。引き続き、大学院のカリキュラム改編に係る検討を開始した。大学院の分野横断型教育「創造工学ユニット」を本年度から開設、登録者は20名であった。また、本学博士課程の優秀な学生を総合研究所所属の特任助手として雇用する制度を開始、大学院博士課程への進学率向上を期待している。

CySecや実践知プログラム等の履修証明プログラム実施など、社会人教育の充実に引き続き力を入れた。研究面では、独創性の高い研究に力点を置き推進を図った。

入学年次から卒業年次までの一貫した人材育成については、コロナ禍など環境変化に対応した各講座等をオンライン中心で実施し職業意識の向上に向けた支援を進めた。また、ハイブリッド学園祭の開催など、学生厚生もオンライン活用が中心となったが、学生支援体制を充実したことで、結果として休退学者を縮減し、めんどみみの良さを向上させた。

接触機会を保ちながら受験生に寄り添い出願まで成長させる「ナーチャリング広報」を展開するとともに、IRデータによる入試種別ごとの学力分析を通じ推薦基準や枠を見直すなどの改善を進め、コロナ禍においても大学の入学目標人員確保を達成した。

また、一昨年、昨年度に引き続き私立大学等改革総合支援事業において、「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」「特色ある高度な研究の展開」「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」「社会実装の推進」の4タイプの全項目で選定された。

長引く新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、大学の運営に大きな影響があったが、様々な形で対応した。

### 実学教育の更なる追求を通じた質の高い教育

- 全学カリキュラム改編検討WGの下、5つのWGにて検討を終了し、令和4年度より全学問学部カリキュラム改編を実施
- 情報教育に関する高大連携FDを、東京電機大学中学校・高等学校、豊島岡女子学園中学校・高等学校と共同開催
- ものづくりセンターにおいて、安全講習等の各種講習、技術相談等をオンラインにより実施

### 大学院に軸足をのいた先導的教育で高度技術者育成

- 博士課程に在学する優秀な学生を総合研究所所属の特任助手として令和4年度に5名採用、博士課程への進学促進
- 令和3年度より分野横断型教育「創造工学ユニット」開設

### 社会人教育の充実

- 履修証明プログラムの新規履修者数  
CySec:学外者40名・学内者11名、実践知プログラム:学外者1名・学内者10名

### 独創性の高い研究の更なる推進

- 科学研究費 2億1,700万円、教育・研究奨励寄付金 7,500万円、受託研究費・共同研究費 3億7,100万円を獲得

### グローバルな視点を持つ学生の育成

- 先端科学技術研究科(博士課程)にすべての授業を英語で実施するInternationalプログラムを新設
- ノーザンブトン大学(英国)と学術交流協定を締結

### 目標とする大学像に相応しい受験競争力

- オープンキャンパスは、コロナ禍の対応として①事前登録制、②時間指定制、③人数制限により、来場型にて開催
- オープンキャンパスに来場できなかった受験生向けに、「オンライン個別相談会」「学びの分野別のキャンパス見学会」を実施



### めんどみみの良さの向上

- オンラインとオンキャンパス(来場型)を組み合わせたハイブリッド学園祭を開催
- 資格取得のための対策講座を拡充
- 対面による、新年クラブ勧誘会・交流会を実施

### 地域連携の推進

- 埼玉東上地域大学教育プラットフォームへ参加
- 足立区と連携し、小学生を対象とした「科学・ものづくり体験教室」をオンデマンドにて開催

## 2 | 中学校・高等学校

高等学校ではカリキュラムデザイン委員会を中心に学習指導要領改訂を踏まえた新教育課程の編成を終え、理事会の決議を経て、東京都生活文化局私学部私学行政課へ学則変更届を提出し、受理された。令和4年度から新教育課程の運用が開始される。また、中教審・学習指導要領に示された授業改善の視点である「主体的対話的で深い学び」を日常の授業に取り込む探究授業のカリキュラムを完成、その検証のため校内研修集会を定期的に開催、各教員が今後の生徒指導、授業改善に繋げることができる基礎を構築できた。新型コロナウイルス感染症蔓延の影響による休校・自宅学習期間中のオンライン授業の実践にて、コロナ禍の副産物として、今後の授業実践に関する新しい知見を得た。

生徒用タブレットの導入に伴い、教育効果と活用状況についてICT部会を中心に検証を進め、オンライン教材の研究と授業の更なる充実に努めた。コロナ禍における教育ツールとして十分に活用ができた。今後増加が予想される故障等に対応するサポートデスク窓口を整備した。

サポート募金については、保護者会でサポート募金のお願いとリーフレット配付を行うことで募金を安定的に確保でき、経済的に就学困難な生徒への奨学金等に活用した。また、生徒の環境整備として、教室にサーキュレータ設置、グラウンド人工芝及び周辺植栽の整備、体育館の冷風機設置をサポート募金で実現できた。

コロナ禍は今後2～3年は続くものと想定して、非来場型の広報活動を拡充し、オンラインの学校説明会、来場型の学校説明会をいずれも開催した。催しの内容、感染状況など考慮し、実施時期の変更を含めて、来場型とオンラインの開催方法を工夫した。オンラインを活用した募集活動を行いつつ塾訪問も積極的に展開した。結果として令和4年度の志願者数は、中学校は開設以来最高を更新し1,374名、高等学校は371名となった。

### 教育改善と高大連携

- 新教育課程の編成終了、令和4年度から新教育課程の運用を開始
- 令和4年度の東京電機大学推薦内部進学率は23.8%

## 3 | 財政健全化

財政健全化実行計画の目標である事業活動収支差額比率10%以上を達成し、将来的な施設設備に対する資金積立を行うために、財政健全化実行計画で策定した収入の増加、支出の減少に取り組んできた。

令和3年度は、積み残し課題となっている人件費の削減による人件費比率の抑制、年次計画で実施している施設・設備の改修・更新事業等が影響を及ぼしていることから、当面の財政改善目標を令和3年度に事業活動収支差額比率3%以上の達成を目標とし、次の項目について取り組み、収支の改善を図ることができた。



### 収入の部

学費収入が次の要因により増加

- ①大学院(修士課程)における入学者の増加[入学公定員の確保]
- ②大学(昼間部)における除籍・退学者の減少

### 支出の部

- ①千葉ニュータウンキャンパスの維持・管理費に係る経費の減少
- ②コロナ禍の影響による在宅勤務活用推進等による超過勤務時間の抑制
- ③事務部署予算の前年度当初予算から原則3%の削減



なお、収束が見込めない新型コロナウイルス感染症拡大が続くなか、安心・快適な修学環境を提供するため、授業の過程で利用するために必要な公衆送信を行う際、個別著作権者等の許諾を得ることなく行うための「授業目的公衆送信補償金制度」への加入や新型コロナワクチンの「大学拠点接種(職域接種)」を実施し、その経費については、増額した予備費で対応することができた。

## 4 | ガバナンスの構築及び運営組織の見直し

教学における執行体制や教学マネジメントについて周知、理解を求め、大学ガバナンスの理解促進を促すとともに、情報戦略の推進とIRデータの利活用促進を図った。人材育成の視点での他大学、協会との人事交流、各評価制度の推進など人事施策、事務部署の再編を進めた。

千葉ニュータウンキャンパスは、利用者の応分の費用負担に基づく施設利用方法に則り一部研究施設として利用した。また、中長期更新、改修計画等に基づき、各キャンパスの施設整備を行ったほか、情報インフラでは、各システムの更新等を実施した。



### ガバナンス

- 新型コロナウイルス感染症対策は、災害対策本部及び大学評議会等と密接に連携、国の方針や感染状況等にあわせてスムーズな学内状況の把握と意思決定を実現

### 管理運営組織

- 人材育成として女子栄養大学との人事交流、大学基準協会への出向研修
- 一般職研修、管理職研修、ハラスメント研修をすべてオンラインで実施
- 在宅勤務は、昨年度の約1.5倍

### 各キャンパス施設設備

- コミュニケーション環境整備 (Zoom利用環境整備、事務PCテレワーク環境整備、コミュニケーションツールの導入ほか)
- 中高タブレット環境整備 (生徒用タブレット環境設定)

## 5 | その他、継続する諸課題

学園力強化を目指し、卒業生との連携強化を促す環境作りをコロナ禍に対応する形で進めた。また、さらなる募金活動の推進を図ったほか、出版局は計画に基づき体制整備を行った。その他、理事会からの検討付議事項、認証評価結果の対応の推進を図った。

### 卒業生連携と募金活動

- 校友会において、会勢拡張に関する施策を実施(ホームページ等のリニューアル、校友会独自のZoom契約等)
- 「学校法人東京電機大学サポート募金」  
目標達成(目標6,000万円:申込実績約 9,746万円)

### 出版局

- 販売力の強化として、本年度より新刊発行後、原則翌月に電子版書籍を発行



## 6 | 推進のための点検評価と次の中期計画策定着手

平成30年度の中長期計画改訂の際に可能な範囲で数値目標設定が付帯された。令和3年度は、中長期計画工程表(改訂版)の各項目の進捗状況を確認した。

令和6年度以降の中期計画策定に着手するため、理事会の下、基本方針検討委員会において将来構想企画委員会への諮問内容について前提条件を含め検討、報告書として取りまとめた。

## 7 | 中長期計画の進捗・達成状況

本学園は、平成24年度に学園創立100周年記念事業の中核であった東京千住キャンパスを開設し、次の100年に向けた基盤整備が整った状況を踏まえ、社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現を目指すべく、平成26年度から10年間を目標とする「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023～」を策定した。

この中長期計画に基づき、平成26年度から平成30年度の5年に亘り、全学的改編、東京千住キャンパス5号館竣工、ものづくりセンター開設、情報環境学部等の千住移転など大型事業を推進した。

令和元年度以降の後半5年間については、社会情勢の変化、また中長期計画を推進する中で顕在化した新たな課題、学園を巡る計画策定時からの変化などを踏まえ、中長期計画の趣旨を尊重しつつ、平成30年度に計画全般の改訂を行った。

改訂した中長期計画の4年目、10年間の中長期計画の8年目にあたる令和3年度の進捗・達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、いくつかの活動項目で進捗が遅れているが、概ね計画どおり進捗した。



# 財務の概要

令和3年度

- 財務ハイライト
- 資金収支計算
- 活動区分資金収支計算
- 事業活動収支計算
- 貸借対照表

## 財務ハイライト

学校法人東京電機大学の令和3年度決算は、令和4年5月24日開催の評議員会・理事会において承認されました。令和3年度決算の概要は次のとおりです。

### 資金収支計算

前年度繰越 78.7億円  
 資金収入 197.5億円  
 資金支出 190.7億円

この結果、翌年度繰越支払資金は、85.5億円となりました。



### 活動区分資金収支計算

教育活動 44.9億円  
 施設整備等活動 △40.0億円  
 その他の活動 1.9億円

この結果、支払資金の増減額は、6.8億円となりました。



### 事業活動収支計算

事業活動収入 186.6億円  
 事業活動支出 170.6億円  
 基本金組入額 △6.6億円

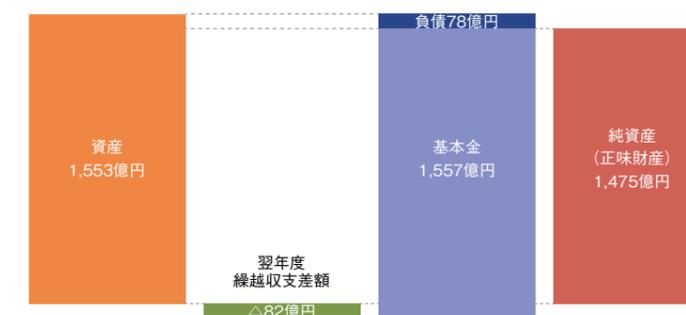
この結果、当年度収支差額は9.4億円、事業活動収支差額比率は8.6%となりました。



### 貸借対照表

資産の部 1,553億円  
 負債の部 78億円  
 基本金 1,557億円

この結果、翌年度繰越収支差額は△82億円となりました。



## 令和3年度に優先的に取り組んだ主な事業

### [一般会計]

#### (1) 施設・設備の改修・更新事業

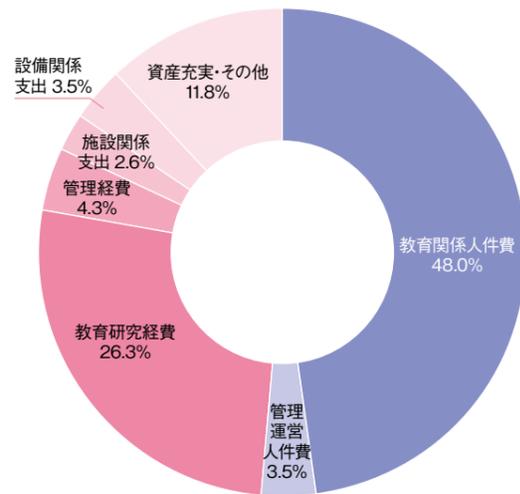
- ① MARCO2020基盤整備
- ② コミュニケーション環境整備
- ③ 基盤環境整備
- ④ データ活用環境整備
- ⑤ 研究環境整備
- ⑥ 授業環境整備
- ⑦ 学生生活環境整備
- ⑧ PC環境整備
- ⑨ 中高タレット環境整備
- ⑩ トータルコーディネート
- ⑪ 電話設備更新工事
- ⑫ 東京千住キャンパス防犯カメラ設備更新工事
- ⑬ 東京千住キャンパス空調制御更新工事
- ⑭ 東京千住アネックス体育館換気設備新設工事
- ⑮ 埼玉鳩山キャンパス1・2号館防水工事
- ⑯ 埼玉鳩山キャンパス3号館空調機更新工事
- ⑰ 埼玉鳩山キャンパス3号館防水工事
- ⑱ 埼玉鳩山キャンパス6・9・10・11号館自動扉改修工事
- ⑲ 埼玉鳩山キャンパス8号館空調機・照明更新工事
- ⑳ 埼玉鳩山キャンパス8号館防水工事
- ㉑ 埼玉鳩山キャンパス11・12号館空調機更新工事
- ㉒ 小金井教室什器更新

#### (2) 施設・設備の充実事業

- ① 高速ラマンイメージングシステム(理工学部)
- ② 高精度DICその場観察用応力・ひずみ計測システム(理工学部)

## 学費・補助金収入の使われ方

令和3年度の学費収入と国や地方公共団体等からの補助金収入の合計を100とした場合の使用状況は次のとおりです。



経費の内訳	比率
教育関係人件費	48.0%
管理運営人件費	3.5%
教育研究経費	26.3%
管理経費	4.3%
施設関係支出	2.6%
設備関係支出	3.5%
資産充実・その他	11.8%

次のページから学校法人会計基準に基づく令和3年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)の財務計算書を報告いたします。

## 資金収支計算

### 資金収支計算書について(学校法人会計基準第6条の要旨)

当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

### 収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	14,275,942	14,460,032	△ 184,090
手数料収入	623,627	724,374	△ 100,747
寄付金収入	126,487	156,795	△ 30,308
補助金収入	1,981,353	2,086,579	△ 105,226
資産売却収入	400,000	400,000	0
付随事業・収益事業収入	323,942	386,143	△ 62,201
受取利息・配当金収入	175,394	178,315	△ 2,921
雑収入	575,795	608,481	△ 32,686
借入金等収入	0	250	△ 250
前受金収入	2,490,316	2,543,948	△ 53,632
その他の収入	1,468,682	1,287,361	181,321
資金収入調整勘定 <sup>(※1)</sup>	△ 2,733,056	△ 3,076,978	343,922
前年度繰越支払資金	7,252,411	7,865,447	
収入の部合計	26,960,893	27,620,747	△ 659,854

※1 資金収入調整勘定：当年度の収入科目が、前年度又は翌年度に入金となる場合の調整科目です。具体的には前年度以前に徴収済みの前受額を「前期末前受金」、当年度末の未収額を「期末未収入金」として表示します。

### ■予算と決算の差異の主な理由

- ①収入の部
- **学生生徒等納付金収入(184,090千円増加)**  
大学(昼間部)及び大学院(修士課程)の入学者が積算した人数より多く、予算計上額を上回りました。
  - **手数料収入(100,747千円増加)**  
志願者数は減少しましたが、積算した人数より多く、予算計上額を上回りました。
  - **寄付金収入(30,308千円増加)**  
サポート募金及び研究奨励寄付金が増加し、予算計上額を上回りました。
  - **補助金収入(105,226千円増加)**  
授業料等減免費交付金(高等教育の修学支援新制度)、私立学校施設整備費及び経常費補助金(東京都)が増加し、予算計上額を上回りました。
  - **付随事業・収益事業収入(62,201千円増加)**  
受講者の減少により公開講座収入は減少しましたが、委託研究の受入件数の増加等により受託事業収入が増加し、予算計上額を上回りました。
  - **雑収入(32,686千円増加)**  
依願退職者に係る財団からの交付金収入及び施設の学外貸与の回復による施設設備利用料収入が増加し、予算計上額を上回りました。
  - **前受金収入(53,632千円増加)**  
入学予定者数の増加により、予算計上額を上回りました。
  - **その他の収入(181,321千円減少)**  
委託研究等引当特定資産及び前期末未収入金は増加しましたが、減価償却引当特定資産の取崩額が減少したため、予算計上額を下回りました。

### 支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	8,565,463	8,520,124	45,339
教育研究経費支出	5,151,844	4,448,117	703,727
管理経費支出	895,054	753,108	141,946
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	500	500	0
施設関係支出	485,000	428,866	56,134
設備関係支出	720,848	580,215	140,633
資産運用支出	4,081,496	4,314,133	△ 232,637
その他の支出	260,877	322,977	△ 62,100
予備費	(145,906) 4,094		4,094
資金支出調整勘定 <sup>(※2)</sup>	△ 238,268	△ 295,904	57,636
翌年度繰越支払資金	7,033,985	8,548,611	△ 1,514,626
支出の部合計	26,960,893	27,620,747	△ 659,854

※2 資金支出調整勘定：当年度の支出科目が、前年度又は翌年度に支出となる場合の調整科目です。具体的には前年度以前に支払資金の支出となったものを「前期末前払金」、翌年度以後に支払資金の支出となるものを「期末未払金」として表示します。

### ■予算と決算の差異の主な理由

- ②支出の部
- **人件費支出(45,339千円減少)**  
依願退職者に係る退職金の支払いが増加しましたが、大学教員の採用予定者数と採用者数との差異により教員人件費が減少し、予算計上額を下回りました。
  - **教育研究経費支出(703,727千円減少)**  
研究活動や日常業務のオンライン化の促進(大学)、施設・設備の改修・更新事業の一部見直しと部署経費の執行額の減少により、予算計上額を下回りました。
  - **管理経費支出(141,946千円減少)**  
日常業務のオンライン化の促進(法人)及び部署経費の執行額の減少により、予算計上額を下回りました。
  - **施設関係支出(56,134千円減少)**  
施設・設備の改修・更新事業の一部見直しにより、予算計上額を下回りました。
  - **設備関係支出(140,633千円減少)**  
施設・設備の改修・更新事業の一部見直しと助成事業(設備・装置助成他)の申請額の差異により、予算計上額を下回りました。
  - **資産運用支出(232,637千円増加)**  
減価償却額の確定による減価償却引当特定資産の繰入及び次年度繰越額の確定による委託研究等引当特定資産の繰入等により、予算計上額を上回りました。
  - **その他の支出(62,100千円増加)**  
貸付金支払支出は減少しましたが、前期末未払金支払支出が増加したため、予算計上額を上回りました。

## 活動区分資金収支計算

### 活動区分資金収支計算書について（学校法人会計基準第14条の2要旨）

資金収支計算書を組み替えて、現預金の流れを活動区分ごとに把握することができます。

区 分	金 額	内 容 説 明
教育活動資金収支差額	44.9億円	キャッシュベースでの本業の教育活動の収支状況を見ることができます。
施設整備等活動資金収支差額	△ 40.0億円	当年度に施設設備の購入等があったか、財源がどうだったかを見ることができます。
その他の活動資金収支差額	1.9億円	借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。
支払資金の増減額	6.8億円	

## 事業活動収支計算

### 事業活動収支計算書について（学校法人会計基準第15条の要旨）

当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、①、②以外の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支差額①	72,366	1,313,530	△ 1,241,164
教育活動外収支差額②	177,977	181,292	△ 3,315
経常収支差額③	250,343	1,494,822	△ 1,244,479
特別収支差額④	△ 10,079	102,083	△ 112,162
予備費	24,120	—	24,120
基本金組入前 当年度収支差額⑤	216,144	1,596,905	△ 1,380,761
基本金組入額合計⑥ <sup>(※1)</sup>	△ 629,749	△ 661,730	31,981
当年度収支差額	△ 413,605	935,175	△ 1,348,780
前年度繰越収支差額	△ 9,923,224	△ 9,089,693	△ 833,531
基本金取崩額 <sup>(※2)</sup>	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 10,336,829	△ 8,154,518	△ 2,182,311

(参考)

事業活動収入計	18,083,218	18,662,284	△ 579,066
事業活動支出計	17,867,074	17,065,379	801,695

※1 学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額を表します。基本金取崩額がある場合にはその差額を表示することになりますが、取崩額が組入額を超える場合には0表示となります。

※2 資産売却や処分等による当該基本金の取崩額を表します。基本金取崩額が組入額を超える場合には、その超える金額を表示します。

### ■予算と決算の差異の主な理由

- ① **教育活動収支差額(1,241,164千円増加)**  
【経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況】  
事業活動収入では、全ての収入科目で増加となった一方で、事業活動支出では、教育研究経費と管理経費の支出が減少し、教育活動収支差額は、予算計上額を上回りました。
- ② **教育活動外収支差額(3,315千円増加)**  
【経常的な収支のうち、財務活動による収支状況】  
事業活動収入の受取利息・配当金が外国債券の金利上昇等により、予算計上額を上回りました。
- ③ **経常収支差額(1,244,479千円増加)**  
【経常的な収支バランス：①教育活動収支差額+②教育活動外収支差額】  
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加し、予算計上額を上回りました。
- ④ **特別収支差額(112,162千円増加)**  
【資産売却や処分等の臨時的な収支状況】  
教育研究用機器備品の寄贈(科学研究費等)の計上と施設設備補助金が増加し、予算計上額を上回りました。
- ⑤ **基本金組入前当年度収支差額(1,380,761千円増加)**  
【毎年度の収支バランス】  
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加し、基本金組入前当年度収支差額は、予算計上額を上回りました。
- ⑥ **基本金組入額合計(31,981千円増加)**  
【学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額】  
資産除却額が減少し、基本金組入額が予算計上額を上回りました。

基本金の組入額の内訳及び令和4年3月末の基本金は、次のとおりです。

	基本金組入額	令和4年3月末基本金
〈第1号基本金〉	149,075,952千円	149,075,952千円
本年度取得資産額 (自己資金による支払分)	1,009,082千円	
本年度取得資産額 (寄贈分)	54,269千円	
前年度取得資産に係る 未払金の本年度支払額	3,881千円	
本年度除却額	△ 405,502千円	
	661,730千円	
〈第2号基本金〉	0千円	0千円
〈第3号基本金〉	0千円	5,500,000千円
〈第4号基本金〉	0千円	1,120,000千円

## 貸借対照表

### 貸借対照表について（学校法人会計基準第32条の要旨）

資産、負債及び純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して、当該会計年度末の財産の状態を表すものです。

### 資産の部

(単位：千円)

科 目	令和3年度末	令和2年度末	増 減
固定資産	146,271,551	145,494,123	777,428
有形固定資産	98,235,472	100,509,431	△ 2,273,959
特定資産	46,925,836	43,849,630	3,076,206
その他の固定資産	1,110,243	1,135,062	△ 24,819
流動資産	9,024,357	8,281,390	742,967
資産の部合計	155,295,908	153,775,513	1,520,395

### ■貸借対照表各科目の主な増減理由

- ①資産の部
  - **有形固定資産(2,273,959千円減少)**  
当年度の減価償却資産に係る資産価値の減少額(当期償却額)が該当資産の取得額を上回るため、有形固定資産が減少しました。
  - **特定資産(3,076,206千円増加)**  
減価償却資産の更新資金の積立て等により、特定資産が増加しました。
  - **その他の固定資産(24,819千円減少)**  
長期貸付金の返済により、その他の固定資産が減少しました。
  - **流動資産(742,967千円増加)**  
資金収支における繰越支払資金の増加による現金預金と、未収入金が増加したことにより、流動資産が増加しました。

### ②負債の部

- **流動負債(75,880千円減少)**  
授業料等の前受金及び未払金が減少し、流動負債が減少しました。

### ③純資産の部

- 〈基本金〉
  - **第1号基本金(661,730千円増加)**  
固定資産の取得により、基本金を組み入れました。
- 〈繰越収支差額〉
  - **翌年度繰越収支差額(935,175千円増加)**  
教育活動収支の改善により、翌年度繰越収支差額が増加しました。

### 負債及び純資産の部

(単位：千円)

科 目	令和3年度末	令和2年度末	増 減
負債の部	7,754,474	7,830,984	△ 76,510
固定負債	3,948,179	3,948,809	△ 630
流動負債	3,806,295	3,882,175	△ 75,880
純資産の部	147,541,434	145,944,529	1,596,905
基本金 <sup>(※1)</sup>	155,695,952	155,034,222	661,730
繰越収支差額	△ 8,154,518	△ 9,089,693	935,175
負債及び純資産の部合計	155,295,908	153,775,513	1,520,395

※1 学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額です。

# TDU Edge

## 特色ある取り組み

本学園は「技術は人なり」の理念のもと  
幅広い分野で社会とつながり  
科学技術の発展と豊かな未来に向け  
様々な取り組みを行っています。



P26 研究  
P28 教育  
P31 連携・協働  
P33 社会とTDU

## TDU Edge 01 研究

## 高度な技術と独創性で 科学技術の発展に貢献する

### 研究の取り組みの成果

教員等の受賞・表彰 (2021年度受賞、所属・職位は受賞時) 現教員以外の受賞・受賞・表彰も合わせて報告します。

工学研究科 電気電子工学専攻 日高邦彦 特別専任教授

- ・電気設備学会 第21回 電気設備学会 会長賞
- ・電気学会 第77回電気学術振興賞 進歩賞

工学部 電子システム工学科 和田成夫 教授

- ・日本技術者教育認定機構(JABEE) フェロー 認定

工学部 応用化学科 保倉明子 教授

- ・日本分析化学会 2021年度 女性Analyst賞

工学部 機械工学科 齋藤博之 教授

- ・日本材料試験技術協会 日本材料試験技術協会賞

工学部 先端機械工学科 三井和幸 教授

- ・日本AEM学会 日本AEM学会 著作賞

工学部 機械工学科 藤田聡 特別専任教授

- ・日本機械学会 日本機械学会名誉員

工学部 機械工学科 井上淳 准教授

- ・第22回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2021) 優秀講演賞

工学部 電気電子工学科 渡邊翔一郎 助教

- ・電気学会 産業応用部門優秀論文発表賞

理工学部 機械工学系 古屋治 教授

- ・The American Society of Mechanical Engineers(米国機械学会) 耐震工学部門(Seismic Engineering Technical Committee) チェアマン 選出

理工学部 建築・都市環境学系 島田政信 教授

- ・日本火山学会 日本火山学会論文賞

理工学部 共通教育群 張建 特別専任教授

- ・日本学校教育学会 学会賞

理工学部 生命科学系 安部智子 准教授

- ・酵素工学研究会 酵素工学奨励賞

システムデザイン工学部 情報システム工学科 阿倍博信 教授

- ・情報処理学会 情報処理学会フェロー 称号授与

- ・情報処理学会 マルチメディア、分散、協調と

- モバイルシンポジウム(DICOMO2021) シニアリサーチャー賞

- ものづくりセンター 帯川利之 特別専任教授

- ・精密工学会 精密工学会名誉会員

### ●学校法人東京電機大学学術振興基金 各賞受賞者

この基金は、本学園の研究機関及び研究者等を援助するために設け、特色ある新分野を拓く学術研究及び学術研究の国際交流等を奨励し、学術の向上発展に寄与することを目的としています。(2021(令和3)年度の受賞者、所属等は受賞時)

教育奨励賞 中山洋 教授(理工学部 情報システムデザイン学系)

標 題：オンライン授業に対応した学生の学習意欲向上を目的とした授業支援システムの開発：一目標設定・個別学習・補習学習機能の効果検証—

酒井則男 講師(工学部 機械工学科)・五味健二 教授(工学部 機械工学科)

標 題：新しい授業改善方法とコロナ禍におけるオンライン実験への適用

発明賞 【職員・嘱託部門】

長谷川誠 教授(工学部 情報通信工学科)

発明の名称：①「涙液角結膜状態検査装置」涙液角結膜状態検査方法及びプログラム ②「角結膜上皮障害予測アルゴリズム」ムチン障害予測アルゴリズム ③「涙液層破壊時間予測アルゴリズム」④「涙液油層厚み予測アルゴリズム」

【学生・生徒部門】

鬼頭大海さん(理工学研究科 電子・機械工学専攻 修士課程 令和2年3月修了)

発明の名称：「非晶質炭素膜の細胞凝集機能を判定する検査方法。」

論文賞 山本哲也 准教授(工学部 応用化学科)

論文名：「Bulky N-Heterocyclic-Carbene-Coordinated Palladium Catalysts for 1,2-Addition of Arylboron Compounds to Carbonyl Compounds」

阿部善也 助教(工学研究科 物質工学専攻)

論文名：「Widespread distribution of radiocesium-bearing microparticles over the greater Kanto Region resulting from the Fukushima nuclear accident」

文部科学省、日本学術振興会  
科学研究費補助金の採択状況(件)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
新学術領域	1	2	2	2	2
基盤研究A	0	0	0	7	7
基盤研究B・基盤研究B特設	8	6	6	35	33
基盤研究C・基盤研究C特設	66	67	78	109	110
挑戦的研究(開拓・萌芽)	10	6	1	5	2
若手研究A	1	1	2	0	0
若手研究B・若手研究	24	18	17	18	17
特別研究員奨励費	0	0	0	1	0
学術図書	0	0	1	0	0
研究活動スタート支援	0	0	1	3	3
奨励研究	0	1	1	0	0
国際共同研究強化A・B	0	0	0	2	4
計	110	101	109	182	178

受託研究の受け入れ状況  
(継続を含む入金額)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
件数(件)	74	72	60	66	63
受入額(円)	260,554,650	286,672,965	153,095,679	228,172,628	235,036,142

共同研究の状況  
(継続を含む)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
件数(件)	110	111	112	126	136
受入額(円)	102,798,911	84,791,094	98,177,647	122,668,664	136,174,237

特許申請

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
出願件数(件)	30	20	28	16	23
特許取得件数(件)	10	12	16	20	22

研究奨励寄付金の受け入れ状況

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
件数(件)	83	89	109	70	81
受入契約額(円)	82,113,932	88,971,377	99,117,409	93,152,407	74,742,897

研究関連トピックス

口腔内コントローラを開発



伊東教授と、口腔内コントローラを付けた電動車椅子に乗る修士1年の吉田直熙さん  
「面白い応用を思いついたら、伊東までご連絡を！」



口腔内コントローラ

工学部 機械工学科  
伊東明俊 教授

伊東教授の研究室では、軟体型圧力センサによる電動義手の駆動研究を行っています。その研究の中でも、「舌の高機能性を活かして、コントローラに使用できれば、こちらの意志を自在に機械に伝えるインターフェースとして使えるのではないか」という着想のもと、口腔内コントローラが開発されています。

口腔内コントローラの構造は、半球状のシリコンゴムを舌で変形させる構造で、内部にフォトフレクタを3つ均等配置してあり、これにより変形方向も割り出せるようになっています。当初は口の前方に設置して舌で押して上下左右に動かして制御する形式のものが作られました。これにより、電動車椅子を操縦したり、ロボットアームを第三の手として舌で操縦して、健常者のほんだ付け作業を補助させたりすることに成功しました。

さらに舌の疲労を減らすよう、設置位置を口腔の上方に変更し、舌を前後左右に動かして操縦するタイプのコントローラに改良しました。

その他研究関連ニュース

研究室の学生が開発した技術が  
来年発売の製品に採用

工学部 先端機械工学科  
三井和幸 教授

三井教授の研究室では、新素材を開発し、それを応用した福祉機器やトレーニング装置を開発しています。研究室の院生・学生が開発したEAM(Electro Attractive Material:電氣的吸引材料)と名付けた電圧で摩擦のような抵抗力を制御できる新素材を使った小型電子制御ブレーキ(EAMブレーキ)は、脳卒中後に歩行が困難になった方の歩行練習を支援するGS Kneeという装置に搭載され、藤倉化成株式会社様から2023年を目標に発売が予定されています。



RoboChemia®  
GS Knee  
(白い装置)着用図

2021年4月 本学学生の設計で  
学食がリニューアル

理工学部 建築・都市環境学系  
岩城和哉 教授

2021年4月、埼玉鳩山キャンパス第2学生食堂「Komorebi」がリニューアルオープンしました。この学生食堂のリニューアルプロジェクトは学生の企画設計による学食改修として、2019年に開始。学生コンペで選ばれた最優秀案のデザインが実現されたものになります。岩城教授は、この学生食堂リニューアルプロジェクトの監修を務めました。また、改修工事に併せてバリアフリー工事も行われ、車椅子用エレベーターや食堂入口へのスロープも設置されました。



教育の取り組みの成果

学生の受賞 (2021年度受賞、所属・学位は受賞時)

学会やコンクールでの発表などで、大学院生や学部生が様々な表彰を受けています。

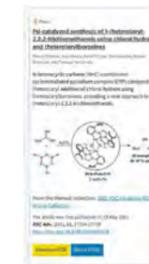
TOPICS ①

RSC Advances-<sup>\*</sup>に承認された論文が  
「2021 RSC Advances HOT Article Collection」  
に選出 <sup>\*</sup>英国王立化学会発行のオンライン査読付きジャーナル

論文名

Pd-catalyzed synthesis of 1-(hetero)aryl-2,2,2-trichloroethanols using chloral hydrate and (hetero)arylborexines

先端科学技術研究科 物質生命工学専攻 清水未紀さん (博士2年)



TOPICS ②

日本材料学会 第7回材料WEEK  
材料シンポジウム 若手学生研究発表会  
優秀講演賞

受賞発表名

酵素抗体法への臨床応用を目指した表面加工シリコン基板の抗体結合量の検討

工学研究科 電気電子工学専攻 電気電子システムコース ミヤツ エンダラ スユエさん (修士2年)

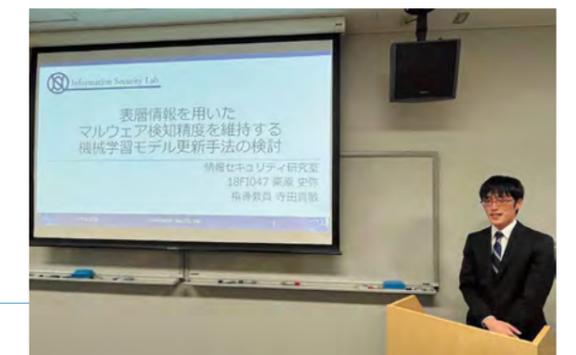


TOPICS ③

日本ネットワークセキュリティ協会  
2021年度 JNSA学生賞<sup>\*</sup>

<sup>\*</sup>文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPIT) Basic SecCapカリキュラム」に参加する学生を対象とした表彰制度。

未来科学部 情報メディア学科 栗原史弥さん (4年)



◀ その他の受賞についてはこちら

学生の活躍

学生の活躍・団体活動・イベントへの参加

TOPICS ①

「Hondaエコマイレージ  
チャレンジ2021もてぎ大会」入賞  
本学から出場した3チームのうち、2チーム入賞



TOPICS ②

技育展(株式会社サポーターズ主催)  
ライフスタイル部門優秀賞



受賞作品:大学生のためのつながるバス時刻表アプリ「unibus」

TOPICS ③

新学術領域研究「人間機械共生社会を目指した対話  
知能システム学」対話ロボットコンペティション  
優秀賞(第3位)



人型ロボット(写真右奥)による旅行代理店を想定した対話コンペティション

TOPICS ④

本学学生チームSnym制作:ステルスSFホラーゲーム  
「PREDATOR AND WRECK 捕食者と崩壊」が  
Nintendo Switchで発売

TOPICS ⑤

SPACE PROJECT  
第2回あざざりCanSat投下試験(ACTS2021)  
カムバックアワード2位、ベストミッションアワード3位、  
総合アワード3位

TOPICS ⑥

電子情報通信学会 メディアエクスペリエンス・  
バーチャル環境基礎研究会(MVE研究会)  
MVE賞

TOPICS ⑦

本学学生が運用・開発している「岡山県 新型コロナウイルス  
感染症対策サイト」\*の功績に、岡山県知事から感謝状授与  
\*同サイトは、高校生の時に開設し、関係各所と連携を図りながら、  
当該学生がボランティアでサイトの運用・開発を行っています。

TOPICS ⑧

本学学生がメンバーとして参加するチーム:  
「JPHACKS2021」(ジャパンハックス) Best Hack Award  
総合順位2位、審査委員特別賞、JPHACKS Innovator 認定

TOPICS ⑨

第18回ACジャパン広告学生賞 新聞広告部門 優秀賞  
第18回ACジャパン広告学生賞 TVCM部門 優秀賞

中学校・高等学校の取り組み

●東京電機大学中学校・高等学校の校訓

人間らしく生きる

τό ἀνθρώπινως ζῆν μανθάνομεν.  
~人間らしく生きることを学ぶ~

中学校の  
教育方針

生徒と教員の信頼関係を大切にしながら、自主性や社会性、学習への積極的な姿勢を育み、6年後の大きな飛躍へと導く。

中学1年:生活・学習両面の自主性を高める  
中学2年:自立した学習法を習慣化する  
中学3年:将来の目標を定めるきっかけをつかむ

●教育目標

生徒一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性と高い知性と強靱な体をそなえ、新しい時代と国際社会の中で活躍し、信頼と尊敬を得る人間となるよう教育する。「豊かな心・創造力と知性・健やかな身体」をそなえた人を育てることが、本校の目標です。

高等学校の  
教育方針

大学入試に対応できる学力をつけるだけではなく、さまざまな職業に対する知識を深めることで生徒の希望する進路へと導く。

高校1年:現実的な視点に基づく進路選択眼を養う  
高校2年:進路目標を学習意欲に結びつける  
高校3年:目標達成に向けて全力で取り組む

●志願者数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中学校	960	1,198	1,147	1,318	1,374
高等学校	472	494	449	444	371
合計	1,432	1,692	1,596	1,762	1,745

●進路状況(2021年度)

高等学校					
卒業生数	本学(学部)	他大学・短大	専門学校	就職	その他
普通科(255人)	61人	163人	7人	1人	23人

中学校		
卒業生数	内部進学	他校進学
中学校(146人)	135人	11人

●進路(高等学校 教育の取り組みの成果)

ほぼ全員が進学希望, 2021年度卒業生現役進学率90.6%

2022年度入試 主な大学入試合格状況(現役生の延べ人数。2022年3月現在)

国公立大学 東京農工4名、東京都立2名、電気通信1名、帯広畜産1名、宇都宮1名、岡山1名、高知1名、愛媛1名、岩手県立1名、会津1名、防衛1名

私立大学 早稲田2名、慶応義塾2名、上智2名、東京理科大学9名、学習院4名、明治7名、青山学院4名、立教12名、中央16名、法政14名、同志社1名、立命館1名、武蔵8名、成蹊9名、名城3名、明治学院4名、日本21名、東洋12名、駒澤1名、専修4名、芝浦工業5名、東京都市7名、工学院11名、亜細亜6名、跡見学園女子3名、大妻女子2名、神奈川3名、神奈川工科大学3名、北里3名、共立女子2名、杏林3名、近畿2名、恵泉女学園2名、国学院5名、実践女子4名、昭和女子3名、創価2名、拓殖2名、玉川4名、帝京13名、帝京科学4名、帝京平成9名、東海5名、東京経済7名、東京工科大学4名、東京女子4名、東京農業10名、東京薬科10名、二松学舎2名、武蔵野4名、明治薬科4名、明星15名

東京電機大学 [学内推薦 61名] (昨年度58名)  
[一般受験合格者 4名] (昨年度7名)

●中学校の受賞・成績

- 日本私立中学高等学校連合会賞
- (公財)東京都体育協会並びに東京都中学校体育連盟賞

●高等学校の受賞・成績

- 東京都知事賞
- 東京都私学財団賞
- 日本私立中学高等学校連合会賞
- 高校生新聞社賞
- (公財)東京都体育協会並びに東京都高等学校体育連盟賞
- 東京都高等学校文化連盟賞
- 東京都高等学校野球連盟賞
- 東京都高等学校吹奏楽連盟理事長賞
- 第44回 東京都高等学校文化祭 放送部門 朗読部門(精励賞)
- アナウンス部門(精励賞)
- ビデオメッセージ部門(第5位)

## TDU Edge 03 連携・協働

# 多彩なネットワークを活かした 研究・教育の推進

時代をリードする先端領域を切り拓くためには、組織の枠を超えた協働により、新たな価値を生み出すための取り組みが重要です。東京電機大学は、他大学や外部研究機関との組織的な連携・交流を積極的に推進し、教育と研究のさらなる発展に注力しています。

### PICK UP

#### 学生の企画・設計によるリノベーション住戸が完成

本学とJKK東京(東京都住宅供給公社)は、高齢化が進む足立区の興野町住宅の活性化のため、学生ならではの新しい発想を活かした、若年世帯向けの魅力ある住戸リノベーションに令和元年5月から取り組んできました。JKK東京では、大学との連携・協力による住戸のリノベーションは今回が初めての取り組みとなりました。

スタートから約2年が経過した令和3年6月、3つのリノベーション住戸が完成しました。

企画段階では、大学院未来科学研究科建築学専攻の大学院生17名からそれぞれリノベーションプランの提案があり、最終プレゼンテーション終了後、6つのプランの候補の中から本学担当教員とJKK東京の職員の方の審査を経て、3つのプランに決定しました。



「湾曲壁の隠れ家」 設計者：川田啓介さん

緩やかなカーブを描く湾曲壁が、南北の居室を穏やかに繋ぎ、風が通り抜ける路地のような空間を作り出しました。奥行きを感じさせる間取りです。

緩やかなカーブが路地空間を作り出す

#### 「伸び縮みする家」 設計者：加藤未来さん

一回一回の先生やJKK東京の担当者の方との会議が印象的でした。社会に出る前に、このような授業では学べない実務的な経験をすることができてよかったです。



2つの「帯」を交互に配置した広々空間

#### 「趣味人たちの空間」 設計者：藤沢裕太さん

多くの経験が初めてで、毎回新しい発見があってとても貴重な経験でした。その中でも現場見学をした時に、自分のプランが実現していく様子を見た時が一番感動しました。模型などを作ることはあっても、実際の住戸の空間そのものをやるのが大学の授業では体験できない経験だったためインパクトも大きかったです。



キッチンを囲う斜めの土間空間

また、リノベーション住戸を設計した大学院未来科学研究科建築学専攻の学生3名は、一般社団法人団地再生支援協会主催の、実在する集合住宅・団地・地域の再生をテーマとした提案で、「第17回 集合住宅再生・団地再生・地域再生学生賞」を受賞しました。

詳細はこちらから ▶



### 外部機関とのネットワーク



### 国際

#### 海外協定校及び交流のある海外大学等 (17の国と地域から39大学・1研究機関)

##### アメリカ

**アメリカ**：コースタルカロライナ大学、コロラド大学、パデュー大学、マーシャル大学、フェアモント州立大学、アーカンソーテック大学、ハワイ大学ヒロカ、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校  
**カナダ**：ビクトリア大学

##### ヨーロッパ

**イギリス**：ケンブリッジ大学ホーマートンカレッジ、ノーサンプトン大学  
**ドイツ**：イルメナウ工科大学  
**フランス**：フランス国立高等精密機械工学大学院大学(ENSM)  
**フィンランド**：ラップランド応用科学大学  
**エストニア**：タリン工科大学

##### アジア・オセアニア

**オーストラリア**：シドニー大学、クイーンズランド工科大学、サザンクロス大学  
**韓国**：大邱大学校、ソウル科学技術大学校、全北大学校  
**中国**：大連理工大学、同済大学、北京科技大学、新疆大学、深圳技術大学  
**台湾**：中原大学、元培医事科技大学  
**インド**：チャンディーガル大学、インド理科大学  
**ベトナム**：ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学、FPT大学  
**インドネシア**：ヌサンタラ・マルチメディア大学  
**マレーシア**：マラ工科大学、マレーシア工科大学  
**タイ**：泰日工業大学、シンクロトン光研究所、モンクット王工科大学トンプリー校、マハサラカム大学  
**ブルネイ・ダルサラーム国**：ブルネイ工科大学

## 研究機関

### 連携研究機関

国立研究開発法人 理化学研究所 / 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 一般財団法人 電力中央研究所 / 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 / 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 / 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 / 国立研究開発法人 情報通信研究機構 / NHK放送技術研究所 / 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 / 日本電信電話株式会社 (NTT物性科学基礎研究所) / 公益財団法人 相模中央化学研究所



- 学外の研究機関と連携して大学院生の研究指導を行う「連携大学院方式」で、研究領域の多様化と研究内容の拡大を図り、大学院教育の活性化を目指します。
- 最新の設備と機器を備えた研究機関において、また客員教授として迎えた連携先研究者のもとで、研究指導を受けることができます。連携先及び客員教員は今後も拡大を図る予定です。

## 他大学・地域



### 東京理工系4大学単位交換制度

本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学

- 各大学の学部及び大学院修士課程の授業を履修できる「単位互換制度」
- いずれの大学院にも特別推薦により進学できる「特別推薦入試制度」

### 首都大学院コンソーシアム

本学、順天堂大学、専修大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学、共立女子大学

- 加盟している各大学大学院の専攻において、授業科目の履修と、一部では研究指導を受けることができる。

### 彩の国大学コンソーシアム

本学、跡見学園女子大学、埼玉医科大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、東邦音楽大学、日本医療科学大学、文京学院大学、明海大学

- 埼玉県西部にキャンパスを有する14の私立大学によって構成されている友好交流協定。単位互換と公開講座を柱として活動を行っており、そのうちの10大学において単位互換制度を実施している。

### 学術連携協力



山形大学工学部、日本工業大学、公立はこだて未来大学、東京医科歯科大学等

### 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」第2期を共同運営

- 14大学が連携して「BasicSecCap」コースを共同運営
- 情報セキュリティ分野における実践的人材を育成する

### 足立区6大学連携

本学、放送大学、東京藝術大学、東京未来大学、帝京科学大学、文教大学

### 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)

- 埼玉県東上地域に所在する20大学・短期大学、関連する自治体、企業等が連携

Tokyo  
Denki University

### 産官学連携に関する交流会

- 東京電機大学経営同友会  
大学ならびに校友会の協力・連携の下に産学協同のネットワークとして2001(平成13)年に発足。正会員数は93名です。\*
- TDU産学交流会(埼玉鳩山キャンパス)  
埼玉県内の企業と理工学部との交流会として1990(平成2)年に発足。会員は28社です。\*  
※2022年4月現在

### 創業支援施設「かけはし」

- 東京千住アネックスにて、足立区から補助を受けて、創業支援施設「かけはし」を2011(平成23)年12月から運営しています。
- インキュベーションオフィス14室とシェアードオフィス12ブースがあります。
- 旧足立区立の中学校を活用した事業として注目されています。



# TDU Edge 04 社会とTDU

## 受け継がれる理念と実績 技術で社会を牽引

### 卒業生の活躍

#### ■ 卒業生が現役トップの上場企業 (社長・会長クラス)

上場企業の代表権のあるトップは10名、役員は55名。

会社名	資本金	従業員(人)	事業内容
アンリツ株式会社	191.71億円	3,954	通信計測器の大手企業。スマホ開発用に強い。食品の異物検出機なども展開。海外でも高シェア。
亀田製菓株式会社	19.46億円	3,362	菓子の製造販売。国内米菓市場の約35%を占める。米国、タイ、ベトナムなど世界に米菓を売っている。
株式会社システム情報	5.02億円	933	独立系Sler。"Dx Solution Partner"としてDXにより新たな価値を提供。
システムズ・デザイン株式会社	3.33億円	366	企業向けシステム開発と業務のアウトソーシングを提供。デジタル技術も適用しDXにより業務効率化を支援。
シンデン・ハイテックス株式会社	14.38億円	109	液晶や半導体などの電子部品販売を主軸とする専門商社。サプライチェーン・マネジメントが強み。
スタンレー電気株式会社	305.14億円	17,243	自動車機器、コンポーネンツ(LED、LCD等)、電子応用製品の各事業を展開。
テクノホライゾン株式会社	25億円	1,320	「映像&IT」と「ロボティクス」を用い、教育、安全・生活、医療、FA(工場自動化)市場でグローバルに事業展開。
株式会社トブコン	166.97億円	4,955	建設機械や農機の自動運転、眠疾患の早期発見をDXソリューションで展開するグローバル企業。
不二ラテックス株式会社	6.43億円	277	ゴム製品及び産業機械向け緩衝器等の製造・販売。

#### ■ 卒業生が役員を務めている上場企業

(株)アイ・オーデータ機器/旭有機材(株)/(株)アドバンテスト/アンリツ(株)/(株)内田洋行/(株)HCSホールディングス/(株)オーネックス/小倉クラッチ(株)/亀田製菓(株)/(株)九電工/(株)コーエーテックモホールディングス/(株)駒井ハルテック/三協フロンテア(株)/(株)GA technologies/GMOフィナンシャルゲート(株)/(株)システム情報/システムズ・デザイン(株)/新光商事(株)/シンデン・ハイテックス(株)/スタンレー電気(株)/住友大阪セメント(株)/住友電設(株)/(株)高見沢サイバネティックス/(株)チノー/(株)DTS/帝国繊維(株)/テクノホライゾン(株)/東京応化工業(株)/(株)東京衡機/(株)ドクシヤ/(株)トブコン/ナガイレーベン(株)/西川計測(株)/日本カーバイド工業(株)/日本金属(株)/日本精機(株)/日本テクノ・ラボ(株)/(株)ハーモニック・ドライブ・システムズ/ピーシー・エー(株)/(株)福島銀行/富士ソフト(株)/不二ラテックス(株)/古林紙工(株)/(株)プロンコピリー/豊和工業(株)/(株)Macbee Planet/(株)マースグループホールディングス/マブチモーター(株)/油研工業(株)/(株)理経/リョービ(株)/(株)レントラックス

出典:『東洋経済別冊 役員四季報2022年度版』

#### ■ 著名な卒業生など 敬称略。ほかにも多くの著名な卒業生がいます。

- 横河 一郎** 横河電機(株)の創業者のひとり。大正時代に欧米を視察し、電気計測器の国産化に成功。同社製の実演装置等を保管。同社は工業計器首位。制御機器と計測器が2本柱。
- 内田 鐵 衛** (株)コロナの創業者。日本初の軽油を燃料とした「加圧式液体燃料コンロ」の開発に成功し実用化。同社は石油暖房機器、空調、温水機器が主力。
- 高橋 勲 次郎** 日本電子(株)創業者で電子顕微鏡の実用化に成功。同社は世界最高の分解能を誇る電子顕微鏡で、世界シェアが高い。
- 福田 孝** フクダ電子(株)の創業者。国産心電計の開発に成功。同社は医用電子機器メーカーとして循環器系に強く、心電計でトップ。千葉ニュータウンキャンパス福田記念国際交流センターを寄贈。
- 櫻 尾 俊 雄** カシオ計算機(株)創業の櫻尾4兄弟のひとり。世界初の小型純電気式計算機「14-A」、電卓、時計、電子楽器など発明品は多数。同社は「G-SHOCK」などを世界展開。東京千住キャンパスに同氏を顕彰したカシオホールがある。(※本学名誉博士)
- 手 島 透** 当時、世界最高輝度の液相式高輝度赤色LEDを開発・実用化し、LED産業発展の基礎を築く。スタンレー電気(株)技術研究所長、代表取締役を歴任。紫綬褒章受章。(※本学名誉博士)
- ス ハ ー ル** インドネシア共和国国家イノベーション委員会会長、アル・アズハル・インドネシア大学学長を経て、インドネシア政府要職を歴任。旭日重光章受章。(※本学名誉博士)
- 新 田 次 郎** 直木賞作家、気象学者。気象庁に勤務しながら本学を卒業。「強力伝」で直木賞。自らの体験に根ざした「富士山頂」や「聖職の碑」などの山岳小説で有名。紫綬褒章受章。
- 熊 谷 達 也** 直木賞作家。東北や北海道の民俗、文化、風土に根ざした小説「邂逅の森」で、山本周五郎賞と直木賞をダブル受賞。「漂泊の牙」で新田次郎文学賞。
- 円 谷 英 二** 特技映画監督。円谷プロダクション創設者。ウルトラマンやゴジラなど、昭和の特殊撮影技術の第一人者で、特撮の神様と称される。(電機学校在籍)
- 飯 島 勲** 元小泉内閣総理大臣首席秘書官。21世紀政策研究所(経団連)顧問、安倍内閣 内閣参与。旭日重光章受章。
- 田 村 信 一** 元日本テレビ放送網(株)取締役専務執行役員。テレビ放送デジタル化を推進。第62回前島密賞。
- 窪 沼 久 史** (株)コーエーテックモホールディングス代表取締役副社長兼(株)コーエーテックモゲームス代表取締役社長。プログラマーを経て、「戦国無双」シリーズや「進撃の巨人」などコラボレーション作品を多数担当。
- 重 見 聡 史** (株)本田技術研究所上席研究員。(株)本田技研工業に入社し、本田技術研究所でロボット研究に従事。運動能力に優れた最先端ロボット開発のリーダーとしてASIMOを誕生させた。
- 鮎 川 勝** 南極あすか基地初代越冬隊長。元・南極観測センター長。国立極地研究所名誉教授。専門は極地設置工学。
- 西 角 友 宏** タイター時代に「スペースインベーダー」を開発し、大ブームを起こした。元・ドリームス代表取締役、現・タイター アドバイザー。
- 太田順也(ZUN)** ゲームクリエイター。「東方Project」の原作者。東方Projectは巨大コンテンツに成長。同人サークル「上海アリス幻楽団」運営。



櫻尾 俊雄  
写真提供:カシオ計算機株式会社



代表作品  
写真提供:株式会社コーエーテックモゲームス

### 社会に貢献する東京電機大学

#### ● 丹羽保次郎記念論文賞

日本の十大発明家に数えられる初代学長故丹羽保次郎博士の電気通信技術に対する功績を記念し、大学院生等を対象に1977(昭和52)年に設立されました。2021(令和3)年度は9件の応募があり、審査の結果、次の2名の方が受賞されました。(所属等は受賞時)

**網田 鍊氏**(北海道大学大学院 情報科学院 博士後期課程 修了(令和3年3月))  
受賞対象論文「Variable Flux Memory Motor Employing Double-Layer Delta-Type PM Arrangement and Large Flux Barrier for Traction Applications」IEEE Transactions on Industry Applications(2021年7.8月・vol.57)

**白井 僚氏**(大阪大学大学院 情報科学研究科 博士後期課程 修了(令和3年3月))  
受賞対象論文「DC Magnetic Field Based 3D Localization With Single Anchor Coil」IEEE Sensors journal(2020年4月・vol.20)

#### ● マスコミで注目された教職員

- 安田 進 名誉教授**(元理工学部 建築・都市環境学系教授) 水害被害や土砂災害についてテレビ・新聞で解説やコメント。
- 寿楽 浩太 教授**(工学部人間科学系) 原子力に関わる問題に詳しい専門家としてテレビ・新聞で解説やコメント。
- 松井加奈絵 准教授**(システムデザイン工学部 情報システム工学科) スマート社会やスマートシティに関して新聞で解説やコメント。

#### ● 東京電機大学出版局の活動紹介

教科書、技術書、学術書、啓発書や文部科学省教科書など多くの出版物を刊行し、社会から高い評価を得ています。2021(令和3)年度は「大学院活用術」「宇宙からの地球観測」「ATP-EMTPによる開閉現象過渡解析」(本学学術振興基金研究成果出版費援助対象書籍)「サイエンス探究シリーズ 偉人たちの挑戦 1・2」「よくわかるトライボロジー」「学生のためのJavaScript」「コミュニケーションリテラシーの教科書」など19点の新刊書籍、重版66点を刊行しました。日本書籍出版協会、大学出版部協会、工学書協会、日本出版学会等に所属。



#### ● 教育・研究の公開

教育の公開や社会貢献などを行っています。

##### 講演会、公開講座等

- 「TDU生涯学習講座 オンライン版」
- 「サイバーセキュリティシンポジウム in TDU 2022」
- 「医療機器国際展開技術者育成講座」
- 「第45回ME講座」
- 「CRCフォーラム」

##### 「科学・ものづくり体験教室」

2. カメラオプスキュラの工作

⑥ チェック と 組み立て パートⅡ

切り込みが入っているかチェック

点線に合わせて丸める

テープで固定、間を作る

しっかり固定

カメラオプスキュラを作って光のアシギに迫ろう!

STEP4: 船を走らせる

(2) 船を走らせよう

いよいよ船を走らせませす。

\*ストローからお湯ではなく炭酸ガスが出始めたらお湯切れです。

入浴剤で走る船を作ろう!

#### ● 大学発ベンチャー紹介

会社名	概要
ネプラス(株)	設立年月: 2000(平成12)年5月 業務概要: 高速高精度3次元位置測定システム等の開発、販売等 本学関係者: 代表取締役: 新津 靖 特定教授(システムデザイン工学部情報システム工学科)
日本バイオリファイナリー(株)	設立年月: 2019(平成31)年1月 業務概要: 再生可能資源(バイオマス)を原料とした製品の製造技術開発、製品開発、輸出入及び国内販売 本学関係者: 発起人: 椎葉 究 特定教授(理工学部生命科学系)

(教職員が役員の企業 2022年4月現在)

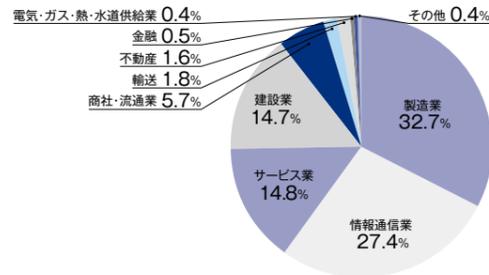
就職実績

●就職内定率

98.4%

2022年3月卒業生、修了生の就職内定実績。民間企業への就職希望者1,523名に対して、1,499名が内定を獲得しました。

●産業別就職割合



●求人数

13,393社 本学の学生一人あたりの求人数は約8.2社。(全国平均は1.5社:リクルートワークス研究所調べ)

●希望企業への内定獲得率

92.6% 2022年3月卒業生アンケートで就職内定先企業が、希望順位の第3位までの割合。第1位と回答した学生も63.9%にのびります。

●就職先企業の満足度

97.9% 2022年3月卒業生アンケートで就職内定先企業を「大変満足」「満足」と答えた学生の割合。

●学内企業説明会参加企業数 (2021年3月~2022年3月に開催)

738社 就職活動の時期に電大生のために会社説明会に参加して下さった企業数。

●卒業生による仕事研究セミナー参加企業数 [キャリア教育行事] (2022年1月開催実績)

277社 2021年度は卒業生が活躍する企業277社がオンラインで参加し、卒業生が親身になって相談ののってくれました。

●キャリア支援・就職支援講座 (2021年度)

150回 学部1年生から参加できる講座など、2キャンパスで毎週1つ以上の講座を開講しています。

●過去5年間の主な内定企業実績一覧 (2018年3月~2022年3月卒業生、修了生実績)

東日本旅客鉄道 (JR東日本)	69	富士電機	35
三菱電機	67	大和ハウス工業	34
凸版印刷	48	スズキ	33
日本電気 (NEC)	40	沖電気工業	31
本田技研工業 (ホンダ)	36	SUBARU	31
富士通	28	日立製作所	23
関電工	25	アルプスアルパイン	19
大成建設	24	積水ハウス	19
東海旅客鉄道 (JR東海)	24	大日本印刷	19
東京電力ホールディングス	24	ミネベアミツミ	18
NECソリューションイノベータ	23	ヤフー	17
京セラ	14	ソフトバンク	14
日本電産	12	NTTデータ	10
キヤノン	10		

IHI、アサヒビール、アマゾンウェブサービスジャパン、安藤・間、いすゞ自動車、出光興産、イビデン、インターネットイニシアティブ、宇部興産、SAPジャパン、NTTドコモ、NTT東日本グループ会社、大林組、オムロン、オリエンタルランド、オリンパス、カゴメ、カシオ計算機、キーエンス、クラレ、KDDI、コナミデジタルエンタテインメント、サイバーエージェント、資生堂、シチズン時計、清水建設、シャープ、住友化学、住友林業、セイコーエプソン、セガ、全日本空輸、ソニーグループ、ダイキン工業、タカラスタンダード、竹中工務店、チームラボ、ディー・エヌ・エー、TDK、帝人、テルモ、テレビ朝日、デンソー、東京エレクトロニクス、東京ガス、東芝、トヨタ自動車、日本ビクター・パナソニック、任天堂、野村総合研究所、パナソニック、東日本電信電話 (NTT東日本)、フジクラ、マツダ、ミクシィ、三井化学、三井金属鉱業、三菱ガス化学、三菱ケミカル、三菱自動車工業、三菱重工業、三菱マテリアル、村田製作所、明治、ヤマハ発動機、横河電機、楽天グループ、LIXIL、リコー、ローム、ロッテ

●主要内定実績企業一覧 (2022年3月卒業生、修了生実績)

凸版印刷	12	関電工	7
東日本旅客鉄道 (JR東日本)	11	東京電力ホールディングス	6
三菱電機	11	スズキ	6
日本電気 (NEC)	10	東海旅客鉄道 (JR東海)	6
SUBARU	9	富士通ゼネラル	6
沖電気工業	6	アルファシステムズ	5
富士電機	6	セイコーエプソン	4
本田技研工業 (ホンダ)	6	大和ハウス工業	4
大成建設	5	NECソリューションイノベータ	4
ソフトバンク	5	いすゞ自動車	4
日立製作所	5	鹿島建設	4
日野自動車	4		
ヤフー	4		
カンオ計算機	3		
西松建設	3		
日立システムズ	3		
大日本印刷	3		

アイシン、アマゾンウェブサービスジャパン、アルプスアルパイン、安藤・間、イビデン、SAPジャパン、SMC、SCSK、NTN、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTT東日本グループ会社、NTTファシリティーズ、大塚商会、大林組、カゴメ、カプコン、キーエンス、キヤノンメディカルシステムズ、京セラ、KLab、KDDI、コナミグループ、コニカミノルタ、小松製作所、コンビ、Cygames、サイバーエージェント、JVCケンウッド、清水建設、シャープ、住友化学、セガ、積水ハウス、ソニーグループ、ダイフク、太陽誘電、竹中工務店、チームラボ製作所、チームラボ、Chatwork、ツムラ、TDK、TBSテレビ、THK、帝人、テルモ、デロイトトーマツサイバー、デンカ、東急電鉄、東芝デバイス&ストレージ、トヨタ自動車、ドワンゴ、日揮ホールディングス、日産自動車、日清紡ホールディングス、日本化学、日本精工、日本航空電子工業、日本電産、パイオニア、日立造船、不二越、富士通、freee、ポッシュ、マツダ、ミクシィ、三井金属鉱業、三井住友海上火災保険、三菱自動車工業、三菱重工業、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、村田製作所、メタウォーター、森ビル、矢崎総業、安川電機、ヤマザキビスケット、ヤマハサウンドシステム、ヤマハ発動機、横河電機、LINE、楽天グループ、レンゴー、ローム

卒業生が企業等で作っている「電機会」

1 教職校友会	1,557	7 関電工電機会	168
2 東京電機大学技術士会	400	8 沖電気電機会	166
3 防衛庁電機会	372	9 東管支部	137
4 民間放送校友会	293	10 鹿島建設電機会	123
5 三菱電機会	281	11 電磁電機会	112
6 錦央電機会	174	12 大成建設電機会	111

13 明電舎電機会	99	19 特許電機会	48
14 経営同友会	91	20 日本電波工業電機会	44
15 京三電機会	78	21 アズビル電機会	40
16 東光電気工事電機会	64	22 商工懇話会	40
17 竹中電機会	57	23 東亜ディーケーケー電機会	32
18 長谷工電機会	57	24 フジクラ電機会	32

※他に多くの企業内電機会があります。数字は会員数。

データ集

●資産 (2022年5月1日現在)

キャンパス総面積	698,665.41㎡
東京千住キャンパス	26,221.39㎡
埼玉鳩山キャンパス	348,469.68㎡
千葉ニュータウンキャンパス	205,058.00㎡
東京小金井キャンパス	22,023.48㎡
東京千住キャンパス千住東グラウンド	7,918.86㎡
平岡総合グラウンド	88,974.00㎡

図書蔵書数	217,128冊 雑誌等 約10,080タイトル
学生用図書	202,087冊
研究用図書	15,041冊
雑誌	2,080タイトル
電子ジャーナル	約8,000タイトル
電子ブック	約63,000タイトル

コンピュータ台数	ネットワーク接続: 約8,700台
----------	-------------------

●学生・生徒数 (人) (2022年5月1日現在)

大学	10,023 (1,337/13%)	※( )内は女性で内数。%は割合
先端科学技術研究科 (博士)	45 (9)	
工学研究科 (修士)	374 (39)	
理工学研究科 (修士)	263 (34)	
未来科学研究科 (修士)	264 (45)	
システムデザイン工学研究科 (修士)	87 (18)	
工学部	2,740 (234)	
工学部第二部	797 (67)	
理工学部	2,738 (392)	
情報環境学部	6 (0)	
未来科学部	1,607 (308)	
システムデザイン工学部	1,102 (191)	
高等学校	756 (206/27%)	
中学校	488 (154/32%)	

●定員 (2022年4月1日現在)

大学院	入学定員	収容定員
<b>工学研究科 (修士)</b>		
電気電子工学専攻	35	70
電子システム工学専攻	25	50
物質工学専攻	25	50
機械工学専攻	30	60
先端機械工学専攻	25	50
情報通信工学専攻	30	60
	170	340
<b>理工学研究科 (修士)</b>		
理学専攻	15	30
生命理工学専攻	25	50
情報学専攻	34	68
機械工学専攻	18	36
電子工学専攻	18	36
建築・都市環境学専攻	12	24
	122	244
<b>未来科学研究科 (修士)</b>		
建築学専攻	60	120
情報メディア学専攻	35	70
ロボット・メカトロニクス学専攻	45	90
	140	280
<b>システムデザイン工学研究科 (修士)</b>		
情報システム工学専攻	35	70
デザイン工学専攻	25	50
	60	120
<b>先端科学技術研究科 (博士)</b>		
数理学専攻	2	6
電気電子システム工学専攻	3	9
情報通信メディア工学専攻	3	9
機械システム工学専攻	3	9
建築・建設環境工学専攻	3	9
物質生命理工学専攻	3	9
先端技術創成専攻	3	9
情報学専攻	2	6
	22	66
大学院計	修士 492	984
	博士 22	66
	合計 514	1,050

●卒業生数 (人) (2022年5月1日現在)

230,882 (住所判明者:94,147 校友会正会員数:25,676)

●修了者・卒業者数 (2021年度)

		昼	夜	合計
大学院	先端科学技術研究科 博士課程 (後期)	7 ※(1)	—	7
	工学研究科 修士課程	153 ※(2)	—	153
	理工学研究科 修士課程	92 ※(3)	—	92
	情報環境学研究科 修士課程	32 ※(4)	—	32
大学	未来科学研究科 修士課程	128 ※(5)	—	128
	工学部	621 ※(6)	—	621
学部	工学部第二部	—	148 ※(7)	148
	理工学部	604 ※(8)	—	604
	情報環境学部	2	—	2
	未来科学部	336 ※(9)	—	336
	システムデザイン工学部	251 ※(10)	—	251
高等学校		255	—	255
中学校		146	—	146
合計		2,627	148	2,775

※(1)2021年9月修了者1名を含む。  
 ※(2)2021年9月修了者1名を含む。  
 ※(3)2021年9月修了者1名を含む。  
 ※(4)2021年8月修了者1名を含む。  
 ※(5)2021年9月修了者3名を含む。  
 ※(6)2021年9月卒業生6名を含む。  
 ※(7)2021年9月卒業生4名を含む。  
 ※(8)2021年9月卒業生3名を含む。  
 ※(9)2021年9月卒業生5名、3年の修学による早期卒業生2名を含む。  
 ※(10)2021年9月卒業生1名を含む。

大学	入学定員	収容定員
<b>工学部</b>		
電気電子工学科	120	480
電子システム工学科	90	360
応用化学科	80	320
機械工学科	110	440
先端機械工学科	100	400
情報通信工学科	110	440
	610	2,440
<b>理工学部 理工学科</b>	600	2,400
理学系		
生命科学系		
情報システムデザイン学系		
機械工学系		
電子工学系		
建築・都市環境学系		
<b>未来科学部</b>		
建築学科	130	520
情報メディア学科	110	440
ロボット・メカトロニクス学科	110	440
	350	1,400
<b>システムデザイン工学部</b>		
情報システム工学科	130	520
デザイン工学科	110	440
	240	960
<b>工学部第二部</b>		
電気電子工学科	60	240
機械工学科	60	240
情報通信工学科	60	240
	180	720
大学計	昼間 1,800	7,200
	夜間 180	720
	合計 1,980	7,920
<b>高等学校・中学校</b>		
高等学校	250	750
中学校	150	450

●役員・従事員数 (2022年5月1日現在)

役員等 (人)

理事	監事	評議員	顧問	学資	参与
13	2	48	2	17	35

専従者 (人)

	教員職員	教育嘱託	任期付教員	特別専任教授	事務職員	事務嘱託	技術職員	技術嘱託	計
法人	0	0	0	0	35	2	1	0	38
大学	247	25	68	9	113	11	6	3	482
高等学校	40	0	0	0	4	0	0	0	44
中学校	21	1	0	0	2	1	0	0	25
小計	308	26	68	9	154	14	7	3	589
事業本部	0	0	0	0	6	0	0	0	6
校友会	0	0	0	0	3	0	0	0	3
合計	308	26	68	9	163	14	7	3	598

●学生募集状況

学部志願者数 (一般選抜・共通テスト) (人)

学部	2020年度	2021年度	2022年度
工学部	10,953	10,713	10,119
工学部第二部	935	899	920
理工学部	6,522	6,670	6,103
情報環境学部			
未来科学部	6,428	5,908	6,528
システムデザイン工学部	4,475	5,136	4,726
合計	29,313	29,326	28,396

●進路状況 (2021年度修了者・卒業者)

大学

- (1) 求人申込企業数 ..... 13,393社
- (2) 求人数 ..... 178,158人
- (3) 就職希望登録者及び決定者数

内訳		登録者数	決定者数	内定率	
大学院	工学研究科	修士課程	140人	140人	100.0%
	理工学研究科	修士課程	87人	87人	100.0%
	情報環境学研究科	修士課程	29人	29人	100.0%
	未来科学部	修士課程	117人	117人	100.0%
	工学部		402人	393人	97.8%
学部	工学部第二部		106人	101人	95.3%
	理工学部		368人	358人	97.3%
	情報環境学部		2人	2人	100.0%
	未来科学部		185人	182人	98.4%
	システムデザイン工学部		193人	191人	99.0%
合計		1,629人	1,600人	98.2%	

学生職員・補助職員 (人)

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
学生職員	0	55	0	0	0	55
補助職員	1	46	7	0	1	55
合計	1	101	7	0	1	110

外来教員 (人)

	大学	高校	中学	計
非常勤教員	348	34	28	410

業務委託・人材派遣 (人)

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
業務委託・人材派遣	19	109	1	7	4	140

研究コーディネーター等労働契約者 (人)

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
研究コーディネーター等労働契約者	0	12	1	1	0	14

大学院志願者数 (人)

研究科	2020年度	2021年度	2022年度
先端科学技術研究科	14	15	12
未来科学部	144	154	148
工学研究科	178	228	200
理工学研究科	112	152	155
情報環境学研究科	38		
システムデザイン工学研究科		53	44
合計	486	602	559

※大学院志願者数には、9月入学者を含む。

- (4) 規模別就職者数
  - 大企業 (資本金10億円以上) ..... 782人
  - 中企業 (資本金1億円~10億円未満) ..... 404人
  - 小企業 (資本金1億円未満) ..... 414人
- (5) 大学院進学状況

進学先	学部	人数
本学大学院進学者	工学部	162人
	工学部第二部	11人
	理工学部	136人
	システムデザイン工学部	42人
	未来科学部	124人
他大学院進学者	工学部	5人
	工学部第二部	1人
	理工学部	12人
	システムデザイン工学部	3人
	未来科学部	2人

※上記には、早期卒業による本学大学院進学者を含む。

●寄付状況 (2021年度)

学校法人東京電機大学サポート募金

使途指定	在校生ご父母	卒業生(関係団体含む)	教職員・元教職員	法人	一般賛同者	合計
奨学金	80件 739,000円	224件 11,546,000円	37件 965,000円	10件 6,280,000円	8件 1,200,401円	359件 20,730,401円
施設・設備	238件 10,486,500円	65件 1,633,370円	16件 2,117,196円	18件 8,870,000円	18件 665,400円	355件 23,772,466円
課外活動	97件 1,161,500円	52件 1,173,000円	26件 2,007,000円	1件 300,000円	7件 160,200円	183件 4,801,700円
その他・指定なし	73件 1,313,598円	212件 33,247,784円	22件 5,583,798円	21件 6,390,000円	10件 1,628,867円	338件 48,164,047円
合計	488件 13,700,598円	553件 47,600,154円	101件 10,672,994円	50件 21,840,000円	43件 3,654,868円	1,235件 97,468,614円

●1年次学費一覧

2022年度

(単位:円)

科目/研究科	先端科学技術研究科	未来科学部(建築学専攻)	システムデザイン工学研究科/未来科学部(建築学専攻以外)/工学研究科	理工学研究科	工学研究科(社会人コース)
学費	入学金	250,000	250,000	250,000	250,000
	授業料	505,000	630,000	505,000	336,650
	教育充実費	—	5,000	5,000	—
受託諸会費(前期のみ)	校友会費積立金	6,000	6,000	6,000	6,000
	学研災	2,600	1,750	1,750	2,600
	学研賠	1,020	680	680	1,020
入学期(入学諸費用)	764,620	893,430	768,430	763,430	599,620
後期	505,000	635,000	510,000	505,000	340,000
合計(年額)	1,269,620	1,528,430	1,278,430	1,268,430	939,620

(単位:円)

科目/学部	未来科学部(建築学科)	システムデザイン工学部/未来科学部(建築学科以外)/工学部	理工学部	工学部第二部 ※学費単位従量制
学費	入学金	250,000	250,000	130,000
	授業料	721,000	700,500	148,050
	履修単位従量額	—	—	(@13,400×履修単位数)
受託諸会費(前期のみ)	後援会費	5,000	5,000	4,000
	自治会費	3,500	3,500	2,500
	自治会入会金	1,000	1,000	1,000
	校友会費積立金	6,000	6,000	6,000
	学研災	3,300	3,300	1,400
学研賠	1,360	1,360	1,360	1,360
入学期(入学諸費用)	991,160	970,660	950,660	294,310 + (@13,400×履修単位数)
後期	721,000	700,500	680,500	148,050 + (@13,400×履修単位数)
合計(年額)	1,712,160	1,671,160	1,631,160	442,360 + (@13,400×履修単位数)